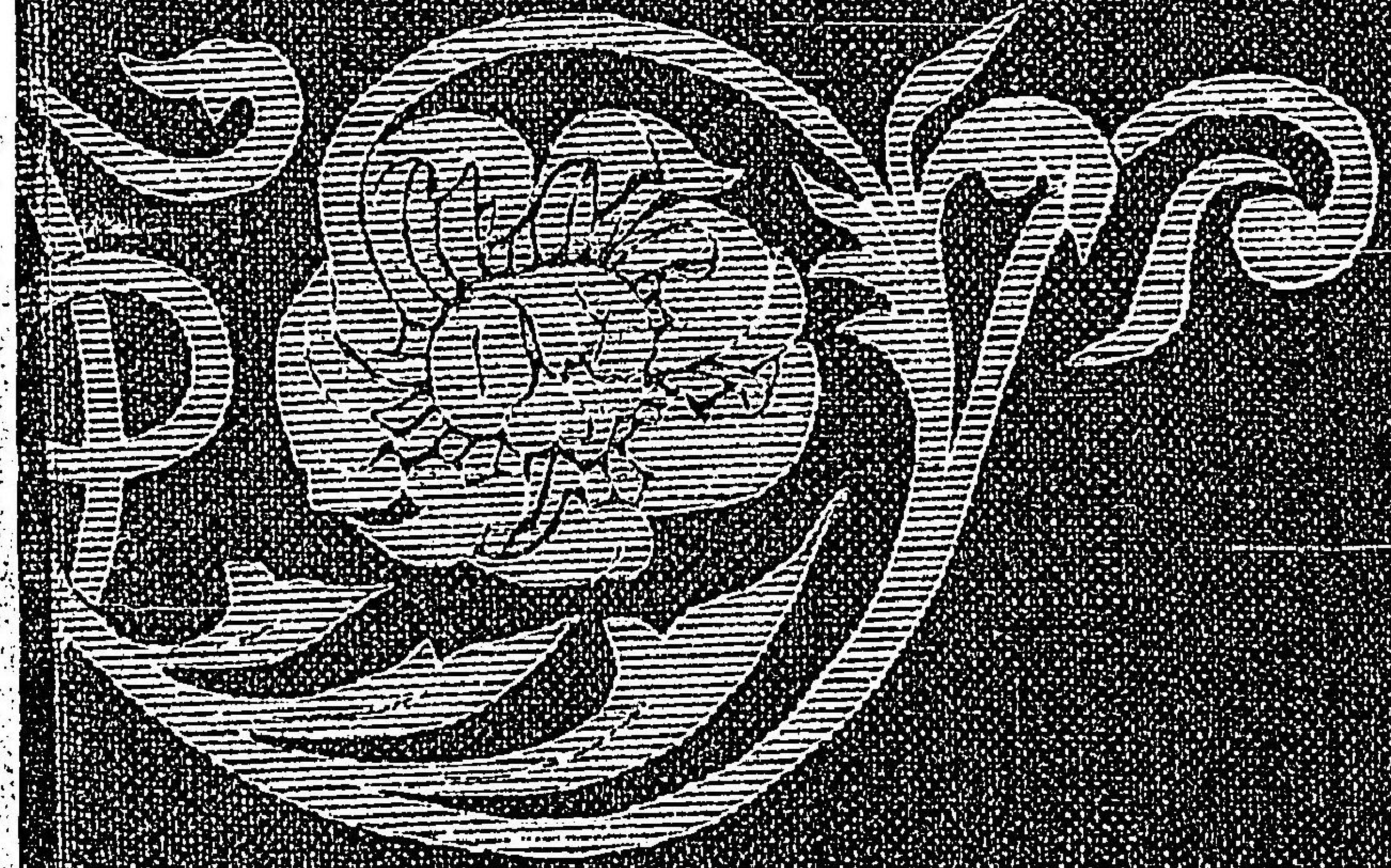


00
133

Exercise
in
English
Composition



THE EIGO KENKYUSHA
TOKYO

181-48

217

中學

英作文獨習書

第壹課

It is, This is, That is の練習

It is a cap.
 That is a cap.
 This is a cap.

【一】 邦語の「...である, であります, て御座います」等は英語の It is... を以て表はすのである。故に普通 It is を それは何々であると譯するがあのそれはは餘計な譯語のやうに思はれる。寧ろ it を てと譯し is を ある, あります, 御座います, と譯する方が大抵の場合遙かに優つて居るやうに思はれる。(因みに There is を そこにありますと譯するも冗譯のやうである There is は「があります」で充分である)。

比較 { It is.....「てあります」
 { There is.....「があります」

【二】 故に邦語にて 僕です, 君です 杯云ふて それはと云ふ言葉の無い折に も 尙英語にては

47 12 26
 内空

{ It is I (you)... と云ふて.
 { ... is I (you)... とのみ云はぬ事に注意せよ.

【附記】 That is は it is に比べると物を指示する意味が強いので丁度邦語の「それが.....です」に相當する.

【三】 This is は it is, that is に比べて一層手近にあるものを指示するのに用ふるのである.

{ This is my cap これは私の帽子だ.
 { That is your cap それが君の帽子です.

作文練習題壹

(本練習題には便宜のため it を用ひて譯す可き題にそれはを附せり、それがとあるは that is を以て譯す可し)

1. これは本 (a book) で御座います.
2. それは日記帳 (a diary) です.
3. これは猫です.
4. これは鉛筆です.
5. それはペンです.
6. それは帽子です.
(縁のある帽子=a hat 縁のない帽子=a cap)
7. これは地圖 (a map) です.
8. それは財布 (a purse) です.
9. それが君の帽子 (your cap) です.
10. それが私の本 (my book) です.

第貳課

疑問文の練習

What is this?
 Is this a cap?
 It is a cap.

【一】 普通の文に於ては This is, That is, It is の如き
(1) (2) (1) (2) (1) (2)
 順序であるが問をかける文即ち疑問文に於ては此順序が逆様になつて Is this, Is that, Is it の順と成るのである.
(2) (1) (2) (1) (2) (1)

(疑問文の終には疑問標 ? を附す)

{ It is a dog.....普通文の順序
 { Is it a dog?.....疑問文の順序

【二】 what (何か) who (誰れか) when (何時か) 等の語は疑問文に於ても文章の冒頭に置かるものである故に邦語の

{ これは何ですかは
 { Is this what? に非ずして
 { What is this? である.

作文練習題貳

1. これは何ですか、鼠ですか。 はい (yes) 鼠です.

(yes, no の後にはコンマ(,)を附せよ)

- 2. あれ (それでもあれでも 同じく that) は猫ですか。ハイ、猫です。
- 2. それは何ですか。ペン軸 (a pen-holder) ですか。ハイ、ペン軸です。
- 4. これは何ですか。字書 (a dictionary) ですか。ハイ、字書です。
- 5. これは何ですか。時計ですか。ハイ、時計です。
(掛時計 = clock 懐中時計 = watch).

第 参 課

打消文の練習

What is this? Is this a clock?
No, it is **not** a clock. It is a watch.

【一】 これは何々です と云ふ事實を可定する文章に對し これは何々ではありません と云ふ事實を打消す文章がある。

{ Is this a clock?.....疑問文
Yes, it is a clock.....可定文
No, it is *not* a clock.....打消文

Not は ぬ ない 等の意味にして最も普通に用ゐらるゝ打消の語である。

【二】 打消の疑問文(「これは時計でないか」の如し)を作るには not の位置は變更しない。

{ This is not a clock.....普通打消文
(1) (2) (3)
X
{ Is this not a clock?.....疑問打消文
(2) (1) (3)

作文練習題参

- 1. これは何ですか。箱 (a box) ですか。イーエ箱ではありません。何ですか。鞆 (a bag) です。
- 2. あれは雨傘 (an umbrella) ですか。イーエ雨傘ではありません。何ですか。日傘 (a parasol) です。
- 3. 本當 (true) ですか。イーエ本當ではありません。
- 4. それは貴方の本ではありませんか。イーエ私の本ではありません。
- 5. これはペンではありません。筆 (a writing-brush) です。
- 6. これは教科書 (a text-book) ではありません。小説 (a novel) です。
- 7. これは掛時計ですか 又は (or) 懐中時計ですか。懐中時計です。
- 8. これは男の子 (a boy) ですか (又は) 女の子 (a girl) ですか。男の子です。女の子ではありません。

第四課

人稱及 To be の練習

I am a boy.
 You are a girl.
 He is a teacher.
 She is a servant.
 It is a dog.

【一】 I と云へば話す人が自身を指し you と云へば話す人が相手方を指し He, she, it 杯云へば對談者が話題の種となつて居る人又は物を指すのであるがこれを英語で人稱と云ふて I, me, my 等を第一人稱 you, your 等を第二人稱 he, she, it 等を第三人稱と云ふのである。

【二】 英語のありますと云ふ語は此人稱に依りて次の如く變化をするのである。

I am (私があります)	} is (彼れ, 彼女, それ, があります).
you are (君があります)	
he	
she	
it	

疑問文に於ては此順序が逆様になつて

Am I.....?
 Are you... ..?
 Is he.....?
 Is she.....?
 Is it.....? となる。

(注意) he は男性 she は女性. it は男女性の孰れにもあらざる物を指す時に用ゆ. you, I には男女性の別なし.

作文練習題四.

1. 私は學生 (a student) です.
2. 君は學生ですか. はい私は學生です.
3. アノ人は學生ですか. いいえ學生ではありません. 教師 (a teacher) です.
4. 君は男兒ですか. いいえ妻は女兒です.
5. 君は犬ですか. 飛んでもない事を (Oh, no) 僕は人間です (a boy にてよし)
6. アノ女は何ですか. アノ女は下女 (a servant) です.
7. アノ女は下女ですか. いいえ何うして (Oh, no) アノ女は爰の家のおかみさん (the mistress of the house) です.
(the の用法は第五課に於て學べ)
8. 犬ですか. いいえ猫です.
9. 虎 (a tiger) ですか. いいえ獅子 (a lion) です.
10. 吾輩は猫である.

第五課

冠詞の練習

It is a dog.

This is the dog.

It is an egg.

【一】 讀者は前章に於て a, the 等の用法に付き多少疑義を抱かれたるならんと思ふ。イデ是より是等の語の用法に付き少しく説明をしやう。

the を定冠詞と稱し a, an を不定冠詞と稱す。

【二】 (い) 定冠詞 the はこのあの例の等の意味を含む語であつて邦語には明はにこのそのあの等云はざる場合に用ふ。例へば「私は弟に本と筆を買つて来てやつた。これが本でこつちが筆です」と云ふ時にはこれが自分の買って来たその本、その筆と云ふ意味の含まれて居る事が解るだらう。斯の如き場合には [the + 本] 又は [the + 筆] と the を附けなくてはならぬ。

(ろ) 之に反して「それは本です」「これは筆です」といへばどの本どの筆と特に指すに非ずして單に一冊の本一本の筆の意である斯の如き場合には不定冠詞 a 又は an を用ふるのである。

冠詞の練習

比較 { 邦語 これは犬です。
英語 { This is dog は誤にて必ず
This is a dog と云はざる可からず。

(は) a と an とは同意味であるが an は a, e, i, o, u, を以て始まる語の前に用ひられ a は其他の字を以て始まる語の前に用ひられるのである。

(英語にて a, e, i, o, u, の五字を母音と稱し其他の字を子音と稱す)。

an + 母音 { a—(例 an apple)
e—(例 an egg)
i—(例 an inn)
o—(例 an ox)
u—(例 an umbrella)

a + 子音 (a dog, a boy, a cat 等澤山)。

【三】 「此家のおかさみん」と云ふが如く of..... に従はるゝ時には其前の言葉には通例 the を附けるのである [the + おかみさん + 此家の] である是れ其 おかみさん と云ふは外の家のおかみさんに非ず此家の おかみさん と特に名指した故である。斯く the には特定の力がある。

總て初對面のものには a, an お馴染のものには the と覺ゆるも一の便法である。

{ the river イツモ行きつけて居る例の川。
a river 或る一の川。

{ the restaurant 例のお馴染の料理屋。
a restaurant 或る料理屋。

尙又「子供か庭に遊ぶ」とか「犬が戸口に居る」とか云へば庭、戸口、なるものは世間一般の庭、戸口、でなく

して自分の住んで居る家の庭戸口を意味するであるから
斯う云ふ場合も (the+庭) (the+戸口) と云はなくてはな
らぬのである。

作文練習題第五

1. これは玉子です。
2. これはインキ壺 (inkstand) です。
3. これは子供です。
4. これが(その)子供です。
5. これが(例の)字書です。
6. 字書は何處に (where) あるか。爰に (here) 字書が
ある。
7. 子供は何處に居るか。爰に居る。(he を略す可から
ず)。
8. 私はペンとインキ壺が欲しい (want)。
9. アノ人は庭に (in the garden) 居る。
10. ドコにアノ人は居るか。家の中 (in the house) に居
ます。

第六課

代名詞の格並びに動詞の練習

I love you.

You love me.

You are my brother.

I am your brother.

He loves his sister.

His sister loves him.

He is her brother.

She is his sister.

I love her.

【一】 前各章に屢々現れたる boy, dog, book 等は人及物の名で文法上之を名詞と云ふて居る。又 I, you, he, it の如きは人の名又は物の名を云はずに其代りに用ふるもので(例へば book と云ふ代りに it と云ひ。girl と云ふ代りに she と云がふ如し) 之を代名詞と云ふ。

【二】 代名詞に格と云ふものがある。

邦語にては私は私を私の等テニオハを用ふるが英語にては格の變化と稱するものがある。次の如きものである。

- 私の變化 { I.....私は
My.....私の
Me.....私を(へ.に)
- 汝の變化 { You.....汝は
Your.....汝の
You.....汝を(に.へ.)
(you に於ては汝はと汝をと同形)
- アノ人の變化 { he.....アノ人は
his.....アノ人の
him.....アノ人を(へ.に)
- アノ女の變化 { she.....アノ女は
her.....アノ女の
her.....アノ女を(へ.に)
(her はのとをと同形)
- it の變化 { it.....これは
its.....これの
it.....これを(へ.に)

【三】 love (愛する) see (見る) go (行く) read (讀む) 等の語は動作を表する語でこれを文典で動詞と云ふ。但し第三人稱 (he, she, it) の後の動詞には語尾に s を附して He reads, she loves 等云ふのである。

作文練習題六

1. これは私の帽子ではありません君の帽子です。
2. 彼女は彼の妻君 (wife) です。

3. 彼女は僕の妹 (sister) です。
(姉は elder sister 妹は younger sister なれど elder younger 等を略してよし brother も亦然り)
4. 彼は僕の兄です。
5. 私は本を読みます。
6. 彼れは小説を読みます。
7. 私は私の兩親 (parents) を愛します。
8. 彼女は彼女の犬を愛します。
9. 私は一人の少女 (a girl) と彼女の犬を見ます。
10. 犬は早く (fast) 走ります (run).
(run に s を附する事を忘るな)

第七課

數の練習

We are students.

You are students.

They are students.

Those are books.

These are books.

There are books.

Here are books.

【一】 邦語には書物が數冊あればとて「是等は本等である」杯と云はない。一冊の時も數冊の時も等しく「これは本です」又稀に「是等は本です」と云ふ。されど英語にては人及物が單一の時には之を單數と稱しニツ以上を複數と稱して形を異にするのである。

【二】 名詞の複數は普通語尾に s を附して作り代名詞の複數は全然異なる語を以て表す事になつて居る。

單	複
dog.....	dogs
book.....	books
cat.....	cats
student.....	students
boy.....	boys
girl.....	girls

【三】 代名詞の數の變化は下の如くである。

單	複
I.....	we
you.....	you (同形)
he.....	they
she.....	
it.....	

而して複數代名詞の格の變化は次の如くである。

(1)	{	we.....	我々は
		our.....	我々の
		us.....	我々を

- (2) { you
your (單數と同じ).
you
- (3) { they..... 彼等(夫等)は
their..... 彼等(夫等)の
them..... 彼等(夫等)を

【四】 名詞の複數を作るに語尾に s を附けて作る外次の法がある。

(a) s, z, x, ch, sh, にて終る名詞は es を附して複數を作る。

單	複
loss.....	losses
box.....	boxes
wish.....	wishes

(b) y にて終り其の前に子音ある時は y を取除きて ies に變じ複數を作る。

單	複
city.....	cities
lady.....	ladies
boy.....	boys
day.....	days

但し y の前に母音あれば其儘 s を附す。

(c) f 又は fe にて終る名詞は ves に變じて複數を作る。

單	複
life.....	lives

wolfwolves

knife knives

(d) 全く異なる語を用ゐて複数を表すものがある。

單 複
man.....men

child.....children

oxoxen

footfeet

【五】 複数のありますは總て are である。

we are
you are
they are
dogs are

作文練習題七

1. あれ(複)は牛です。
2. 我々は女子ではありません。男子です。
3. そこに鳥が五六羽(some crows)居ます。
鳥は白い(white)ですか。イ、エ黒い(black)
4. 爰に白鳥が五六羽居る。白鳥は黒いか。イ、か白
5. 是等の鳥は餓へて居る(hungry).
6. 我等の犬は餓えて居ない。
7. 君達の學校(school)は何處にあるか。
8. 彼の人達の學校は山の上(on the hill)にある。

9. 我々は兄弟です。
10. 彼の女達は姉妹です。
11. 我々は我々の両親を愛します。
12. 我々の両親は我々を愛します。
13. 爰に我々の本があります。
14. あそこに彼等のペンがあります。
15. 是等は我々のナイフではありません。
16. 我々は大人(manの複数)ではありません我等は小兒です。
17. 彼等は乞食(beggars)ですか。イ、エ乞食ではありません。
18. 彼等は金持(rich people)です。

第八課

have と do の練習

(I)

Have you a book?
I have a book.
He has a book.
They have books.

(II)

Do you like it?
 I do not like it.
 I like it.
 He does not like it.
 Does she like it?

【一】 英語にては同じ持つといふにも一人稱二人稱及び三人稱の複數即ち I, we, you, they には have を用ひ三人稱の單數即ち he, she, it には has を用ふるのである。

【二】 即ち have の變化は下の如くである。

I	have
You	have
He	} has
She		
It	} have
We		
You		
They		

【三】 do は助動詞と稱して疑問文及打消文に於て他の動詞と共に用ゐらるゝものである。

私はそれを好みます.....は英語にて
 I like itなれど
 私はそれを好みませぬ...は
 I like not it.....に非ずして
 I do not like itならざるべからず又
 君はそれを好むか.....は英語にて
 Like you it?.....に非ずして
 Do you like it?ならざるべからず

尚 do の變化は下の如くである。

I	}	do
you		
we		
they	}	does
he		
she		
it		

例 { Does he (she) like it?
 He does (she) not like it.

作文練習題八

- 君はペンを持つて居ますか。イ、エ一本も (none) 持ちません。
- 彼れは私のナイフを持つて居ますか。イ、エ 彼は君のナイフを持つて居ません。

3. 彼の人達は英語 (English) を學び (study) ますか
イ、エアノ人達は英語を學びませぬ。
4. 君は毎日 (everyday) そこへ行きますか。イ、エ毎日
は参りませぬ。時々 (occasionally) 行きます。
5. 君は小説を讀むのを (to read) 好みますか。イ、エ
好みませぬ。
6. 私は英語の小説を讀むのを大好きです (like
very much).
7. 私は知りませぬ。
8. 彼は何も (anything) 知りませぬ。

第九課

形容詞の練習

He is a **good** boy.
She is a **pretty** girl.
I am an **honest** man.
They are **bad** boys.

【一】肥えた人・疲せた人・善き人・悪き人と云へば肥えた
疲せた 善き 悪き等は人の風采性質等を形容するもので
之を形容詞と稱す。

【二】形容詞は名詞代名詞を形容す。

【三】形容詞が名詞代名詞を形容するに (1) 直接名詞
の前にありて其名詞を形容すると (2) 動詞を通じて前の
名詞又は代名詞を形容するとの二つの仕方がある。

- (1) She is a pretty girl.
(形) (名)
- (2) The girl is pretty.
(名) (形)

但し形容詞の後に名詞なき時は冠詞を要さないの
てある。

- (He is honest.
He is *an* honest man.

作文練習題九

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. <u>肥</u> った人 (fat) | 2. <u>疲</u> せた人 (thin) |
| 3. <u>丈</u> の <u>高</u> い人 (tall) | 4. <u>丈</u> の <u>低</u> い人 (short) |
| 5. <u>黒</u> い鳥 | 6. <u>白</u> い鳥 |
| 7. <u>正直</u> な人 | 8. <u>不正直</u> な人 (dishonest) |
| 9. <u>おとな</u> しい子供 | 10. <u>あばれ</u> ッ子 |
| 11. <u>美</u> しい少女 | 12. <u>醜</u> い女 (ugly) |
| 13. <u>赤</u> い花 (red) | 14. <u>黄</u> い花 (yellow) |
| 15. <u>馬鹿</u> な奴 (foolish) | 16. <u>利口</u> な人 (clever) |
| 17. <u>大</u> きな犬 | 18. <u>小</u> きな犬 |
| 19. <u>大</u> きな家 | 20. <u>小</u> きな家 |
| 21. 彼れは正直ですか。イ、エ不正直な男です。 | |
| 22. 此子はおとなしいですか。ハイおとなしい子です。 | |

- 23. 彼女は醜婦だ。
- 24. 彼女は美人だ。
- 25. 私共の家は大きくありません。
- 26. あの小さな犬は貴方の (yours) ですか。

第十課

所有代名詞と形容詞の比較の練習

This book is not mine.
 It is yours.
 Mine is older than yours.
 Hers is not so old.
 His is the oldest of ours.

(I) 所有代名詞

【一】 my (私の) your (アナタの) と云へば所有主を表はして其後に名詞の book とか cap とかを付けて my cap とか your book とか云ふのが常であるが爰に所有代名詞と云ふて所有主と所有物とを合せて表はすものがある。

【二】 mine (私のもの) yours (アナタのもの) his (彼れのもの) hers. (あの女のもの) 等を所有代名詞と云ふて [所有主+所有品] を表すのである。即ち。

{ This is my cap と云ふ代りに
 This is mine と云へば mine の内に
 cap が含まれ居る譯である

これは往々前に一度名詞を用ゐる其重複を避けるが爲めに即ち今一層碎いて云へば前に This is my cap. That is your cap と云ひし後ち更に My cap is not so good as your cap と短き談話の中に cap なる語を四つまで用ふる事が甚だ耳觸りであるから後ちの cap は略して Mine is not so good as yours と云ふのである。總ての代名詞は此様に名詞の重複を避けるが爲めに用ゐられるのである。

【三】 所有代名詞は次の如くてある。

單數	{	my + 名詞 = mine
		your + 名詞 = yours
		his + 名詞 = his (是丈けは形が同じ)
複數	{	her + 名詞 = hers
		our + 名詞 = ours
		your + 名詞 = yours (單數と同じ)
		their + 名詞 = theirs.

形容詞の比較

【四】 綺麗な花、大きな犬 と云へば 綺麗な (fine) 及び 大きな (big) なる形容詞は何に比べて綺麗なものでもなく又何に比べて大きいものでもなく只單に 綺麗な 大きな 物を形容する詞であるが若し「此花は其花より綺麗」とか「此犬は其犬より大きい」とか云へば或一つのものと他の

一つのものとは比較して形容するのであるし 又「此花は是等の花の中で一番美しい」とか「此犬は是等の犬の中で一番大きい」と云へば是も亦或一つの物と他の澤山の物とを比較してそれが一番何々であると云ふ形容詞である。

【五】 英語にては或一物と他の一物とを比べて「甲は乙より何々である」云ふを形容詞の比較級と稱し。或一物と他の數物とを比べて「甲乙丙丁戊の中で甲が一番何々である」云ふを形容詞の最上級と稱するのである。

【六】 形容詞の比較級は通例短い形容詞には其語尾に er を附するし又長い字には more を付けて作るのである。最上級は短い形容詞には est を其語尾に附し長い字には most を付けて作るのである。

原形	比較級	最上級
short (短い)	shorter	shortest.
long (長い)	longer	longest.
tall (丈高い)	taller	tallest.
big* (大きい)	bigger (g を重ねる)	biggest.
fat* (肥へた)	fatter (t を重ねる)	fattest.
fine† (美しい)	finer	finest.
rude† (無禮な)	ruder	rudest.

* 短子音で終る語は其子音を重ねる。

† e にて終る語の比較級は r 最上級は st だけを附して己を重ねる事をせぬ。例へば fine は finer, finest で fineer, fineest ではない。

【七】 前に掲げた形容詞は大抵母音が其中に一つしかない。是等を稱して一シラブルの語と云ふが二シラブル

の或る語と三シラブル以上の語全體は er est でなくて前に more most を附するのである。ダカラ覚え易くしやうと思ふたなら前述の如く短い語は er est で長い語は more most であると思ふて差支ない。

原形	比較級	最上級
beautiful (美しい)	more beautiful	most beautiful
famous (名高い)	more famous	most famous
useful (有名な)	more useful	most useful

又語尾が y で其前に子音があると其 y は比較級の時には ier となり最上級の時には iest となるのは次の如くである。

原形	比較級	最上級
easy (易しい)	easier	easiest
pretty (奇麗な)	prettier	prettiest
happy (幸福な)	happier	happiest

【八】 比較級は than (よりは) を伴ひ最上級は of (中で) を伴ふ。

- (a) { 原形.....She is pretty. (彼女は美しい)
 比較級.....She is prettier than her sister. (彼女は彼女の妹より美しい)
 最上級.....She is the prettiest of all his daughters. (彼女はあの人の子供の中で一番美しい)

- (b) 原形..... A is tall (A 君は丈が高い)
- 比較級..... $\left\{ \begin{array}{l} A \text{ is taller than B. (A は B より丈が高い)} \\ A \text{ is taller than C. (A は C よりも丈が高い)} \end{array} \right.$
- 最上級..... A is the tallest of the three (A は三人の中で一番丈が高い)
- (c) The dog is a faithful animal 犬は忠實な動物である。
- The dog is *more faithful than* the cat 犬は猫よりも忠實である。
- The dog is the *most faithful of* all animals. 總ての動物の中で犬が一番忠實である。

作文練習題十

1. 是れは僕の帽子ではない。僕のはそんなに不潔(キタナ)く (*so dirty*) ない。
2. それは君のである。僕のは君のよりモット新らしい (*new* の比較級を考出せよ)。
3. 彼れの傘は彼女のよりも古い。
4. 君の字書は彼れのよりも不潔い (*dirty* の比較級を考出せよ)。
5. 僕の猫は君の家の (*house* は用ゐずとよし) よりも大きい。
6. 僕の家は彼れのよりも小さい。

7. 僕はアノ女位な醜婦は見た事がない (*ugly* の比較級を考出せよ。「位」は *than*)。
8. 僕はアノ女位な美人は見た事がない。
9. 僕はアノ人位賢い人は會つた事はない。
5. 君の頭は僕のより大きい。僕の弟よりも大きい。それは我々の中で一番大きい。

第拾一課

時の練習

I see you now.
 I saw you yesterday.
 I shall see you again tomorrow.

【一】 動詞の表はす動作は今か今より前か今より後の動作なるか其孰れかに屬す可きものである。例へば *see* と云ふ動詞にしても今見て居るのか或は今より前即ち昨日とか一昨日とかそれとも亦ズツ前の一年前とか五年

前とかに見たか或は又是から見やうと云ふのか必ずそれに時の差別があるに違ひない。

文例第一にあるを現在と稱し第二にあるを過去と稱し第三にあるを未來と稱す。

【二】 現在・過去・未來 を動詞の三つの根本の時と云ふのである。

【三】 動詞の現在は其儘の形を用ふるが過去及未來を作るには其形を幾分か變化しなければならぬ。

動詞に規則及不規則の二種があつて規則動詞と云ふのは現在動詞に ed を付けて過去を作るのである。

現在	未來 ^{よか}
walk (歩く)	walked (歩いた)
learn (學ぶ)	learned (學んだ)
start (出發する)	started (出發した)
love (愛す)	loved (愛した)

不規則動詞と稱するのは規則動詞のやうに語尾に ed を付ければ過去になると云ふやうに規則正しく行かないのである。これは即ち現在と過去と全く形を異にするのである。例へば次の如きものである。

現在	過去
get (得る)	got (得た)
write (書く)	wrote (書いた)
see (見る)	saw (見た)
is (ある)	was (ありたり) [單]

are (ある)	were (ありたり) [複]
run (走る)	ran (走りぬ)
send (送る)	sent (送りたり)
go (行く)	went (行きたり)
come (來る)	came (來たり)
give (與ふ)	gave (與へた)
know (知る)	knew (知りし)
do (なす)	did (なせし)
have (持つ)	has (持ちし)
make (作る)	made (作りし)
say (云ふ)	said (云ふた)

不規則動詞の中には現在も過去も全く同形なものがある。

現在	過去
set (置く)	set (置いた)
put (入れる)	put (入れた)
cut (切る)	cut (切つた)

(again [又] to-morrow [明日] yesterday [昨日] は副詞と稱す。

第廿三課に於て悉しく學ぶ可し。

【四】 動詞の未來を作るには現在動詞に shall 又は will を附して作る。

{ I go——現在
I shall go——未來
I went——過去

shall will の用法に付きては委しき事は第拾參課に於て説く可けれど爰にては will は意志を含み shall は意

志を含まずと云ふ事而已を注意し置く可し。

【五】 疑問文打消文に do を用ふる事は既に第八課に於て學びたるが過去を表はす疑問打消文中には did+現在動詞を用ふ。

{ 君は行きましたか.....を英譯すれば
 Did you go?にして
 Did you went?とするは誤れり

{ 私は行きませんでした...は
 又 I went notに非ずして
 I did not goなり

未來の疑問文は次の形を以て表はす。

{ Will you go? 君はお出になりますか。
 Shall I go? 私は参りませうか。

作文練習題十一

1. 私は昨日其處へ参りました。
2. 私は昨日學校へ (to school) 参りました。
3. 君は昨日學校へ参りましたか。
4. アノ人は昨日學校へ参りましたか。
5. イ、エアノ人は昨日學校へ参りませんでした。
6. 君は明日僕と一緒にそこへ行きませんか。
7. はい参りませう。
8. 明日拙宅へお出下さいませんか。
9. 私は私の本を机の上に (on the desk) 置きました。
10. 君は君の帽子をどこへ置き (put) ましたか。

11. 椅子の上に置きました。
12. 机の上には置きませんでした。
13. 誰と一緒に (with whom) 行きましたか。
14. 私の父 (father) と共に参りました。
15. 君のお母アさんは御一緒にありませんでしたか。
16. イ、エ母と一緒に参りませんでした。
17. 今朝はドコへ行きましたか。
18. 叔父さんの家へ (to my uncle's) 参りました。
19. 今朝手紙を一本 (a letter) 書きました。
20. 私は其時 (then) 子供でありました。
21. 私は今は老人である。
22. 私は其時五才 (five years old) でした。

第拾貳課

(a) { Have you seen it?
 Yes, I have seen it already.

(b) { Have you ever seen a
 prettier girl?
 No, I have never seen
 a prettier girl.

【一】 英語にては前に述べたる三つの時より分れ出たる完了時と云ふものがある、過去現在未來皆完了時がある、過去完了現在完了未來完了と斯うあるのだが吾人は爰に作文に最も屢々用ゐられる現在完了に就きて研究せんに先づ

現在完了とは如何なる時を表すや。

【二】 (い) 現在完了とは現在に於て或る動作が完了せる事、邦語の「何々して了った」を表す。

I have eaten it. 食べて了った。

I have read it through. モウ讀んで了った。

He has gone. 彼れは行ッて了った。

The bell has rung. 鐘はモウ鳴ッた。

(ろ) 現在完了は又今迄の經驗を表はすにも用ゐられる。

I have never seen an uglier woman.

こんな醜女は今迄見た事がない。

Have you ever seen a finer view?

君はこんな美しい景色を見た事があるか。

【三】 「昨日會ッた」とか「三年前に見た」とか何時何日と過去の時を明かに指す場合には過去を用ゐて現在完了は用ひない。現在完了は過去の時を示さず、而かも爲した動作は過去に屬して其結果が現在に残るやうな時に用ゐるのである。

具體的に例を擧げて云はふならば

(a) I have bought a dictionary.

(b) I have sold my old dictionary.

と云ふ文に於て何故 have bought と現在完了を用ゐたるかと云へば (i) 買ッたのは何時何日に於て買ッたのか明示して居ない、故に過去を用ゐる事が出来ぬ、併し買ッたと云ふ動作は過去に爲したるもので現在買ひつゝあるのでも又將來買はふと云ふのでもない斯かる時の場合には現在完了を用ゐるのである。それから又第(2)には「私は字書を買ッたよ」と云へば「買ふ」と云ふ働きに重きを置いて言ふて居るのではなく買ッて持ッて居ると云ふ現在の有様を傳へん事が主なのである。斯く動作は過去で其結果が残ッて現在の有様となつて居る事を表はすには現在完了を用ゐるのである。(b) の例も同斷の理由で説明が出来る即ち文中に過去の時が明示してない事(2) 賣ッて了つた結果今は所有して居ない事を表す事なるが故に現在完了を用ゐるのである。

【四】 現在完了を作るには have 又は has に過去分詞なるものを附して作るのである。前章に現在と過去を説明して過去分詞に付き一言も云はなかつたが英語の動詞の形には現在、過去以外今一つの變化がある。これを過去分詞と云ふ。即ち次の如きを動詞の三變化と云ふ。

現在	過去	過去分詞
go	went	gone
see	saw	seen
come	came	come
write	wrote	written
is	was	been
are	were	been

現在	過去	過去分詞
do	did	done
have	had	had
give	gave	given

此過去分詞なるものは獨立して用ゐられる事はない。必ず to be の動詞 (is am an 等 アル の動詞の總稱) か to have の動詞と結合して用ゐられるのである。

現在完了の形は [to have + 過去分詞] と定まツて居るのである。

【五】 規則動詞即ち語尾に ed を附して過去を作る動詞の過去分詞は其過去と同形である。

start	started	started
learn	learned	learned
study	studied	studied

人に向つて経験を尋ねる時には Have you ever と ever (曾て) なる詞を附するのが常である邦文に「曾て」なる語がなき折でも経験を尋ねる文章を英譯するには ever を用ゐた方がよい。

それから ever は疑問文而已に用ふるので「私は曾て何々したことがある」といふ肯定文中の「曾て」は once を用ゐて ever ではない。

I have never been there の如き文に於ける never を決してと譯するは當を得て居ない之は「今迄に……ない」位の意味で決してと云ふ程強い意味はないのである。

尙現在完了に付きては 第拾七課 に於て更に詳説する所ある可し。

作文練習題十二

1. 君は夕食 (supper) を召上りましたか (召上るは eat よりも take 又は have の方宜し. take, have の過去分詞を考出せよ.)
2. ハイ既に (already) 食べました.
3. 私は私の古い帽子を賣つて了いました.
4. 私は新しい帽子を買ひました.
5. 君は曾て獅子を見た事がありますか.
6. 見た事はありません.
7. 私は手紙を一本書いて了いました.
8. 私は私の古い字書を弟にやつて了いました.
9. 私は財布 (purse) を失ひました (lost).
10. 君は君の鐵砲を何うしました. (What have you done with.....?) 賣つて了いました.
11. 君の時計を何うしましたか. 加藤に貸して (lend) やりました.
(lend は現在なり過去分詞を考出せよ)
12. 彼女は彼女の指環 (ring) を何うしましたか. 賣つて了いました.
13. 彼女は珍らしい指環を買ひました.
14. アノ人はアノ人の馬を何うしましたか. アノ人の息子にやつて了いました.
15. 君は洋行 (abroad) した事がありますか.
(have been を用ゐよ. go を用ふる勿れ).
イ、エ 一度も (never) ありません.

第拾參課

Shall と Will の練習

I shall fail.
 I will try.
 You (he) will succeed.
 You (he) shall go.

【一】 總て吾人の爲す動作は吾々の意志から出るものとさうでないものと、即ち有意志無意志の二つに分れる概して云へば shall は無意志で will は有意志である。

第一人稱に於ける shall 及び will は全く此根本の用法に従ふものである。

【二】 (い) I shall は無意志にして I will は有意志である。

「私は失敗するでせう」(I shall fail) と云ふ文を見よ、誰れも好んで失敗するものはない、失敗は自分の意志から來たものではない、故に I shall fail の shall は無意志である事が解かるであらう。

(い) 「私はやってみやう」(I will try) の文を見よ、やってみやうと云へば自分の決心即ち固い意志を表すのである、故に I will try の will は意志を含んで居る、尙次を比較せよ。

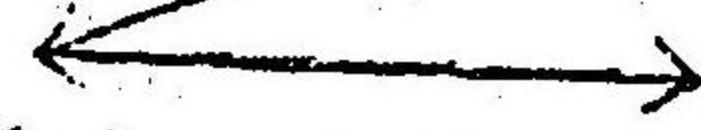
- a. I will die.....誰嚴瀆
- b. I shall die病死
- a. I will go at once=即座の決心
- b. I shall go to school=義務

思ひ立つて遊びに行くのなどは自己の意志から出るのだから I will go であらう。それに反して學校へ行くのや役所へ行くのなどは自分の勤務であつて極まつた事でマア云はゞ仕方がなく行くのだから shall を用ふるのである。

【三】 You (he) will 即ち第二第三人稱の will は I (we) will と丸で違ふ、此場合の will は意志がない方が多い。You will succeed は「君は成功するでせう」He will go は「彼の人には行くならん」位の意味で意志は含まれて居無い。

【四】 You, he shall は話す人の意志が you 又は he に移るのを表すのである。

話し手意志



You (he) shall go

汝(又は彼れ)を行かせる

此場合に於ては You 又は he なる者に意志は無くして文に表れて居ない話し手の意志が you 又は he に及んで來るのである。

【五】 約言すれば You will, he will は無意志にして you shall, he shall は話者の意志が you, he に及ぼすを云ふ。

shall, will の用法中初學者の特に困難を感じるのは話者の意志が主語に及ぼすと云ふ事であらう。吾人は夫等の學生の爲めに一二の例を上げて此 shall の意を明かに傳へやうと思ふ。

1. You shall die=汝を殺す, 汝を死刑に處す。
(You will die は君は死にます今度の病氣はあぶない位の意)
2. He shall go=彼を行かせる。
(He will go 彼は行くてせう)

作文練習題十三

1. やって見やう。
2. 之を君に上げませう。
3. 明日私は學校に行く。
4. 此本を君に貸して (lend) 上げやう。
5. 明日學校でそれが入ります (need)。
6. 君と一緒にやりませう。
7. 彼れを死刑に處する。
8. 明日返事をする (You shall have.....)
9. お前にこれをやる (you shall have.....)
10. あの人の私の犬を一疋やらう。

第拾四課

助動詞の練習

- | | |
|---|---------------------|
| a | You may go. |
| | It may rain. |
| b | I can not do it. |
| | It can not be true. |
| c | You must do it. |
| | It must be true. |

【一】 may, can, must 等を助動詞と稱して他の動詞の意味の補助として用ゐられる。助動詞に對する他の動詞を本動詞と云ふ例文中の go, rain, do, be, 等は本動詞である。助動詞は單獨に用ゐられる事はない、必ず本動詞と合して用ゐられるのである。may, can, must の中最も用法の廣いのは may である。數ある用例の中最も普通なのは。

【二】 may には「何々してよろしい。何々して差支ない」と云ふ許可の意味と「何々するかも知れぬ又何々であるかも知れぬ」と云ふ多分の意味とがある。

{ You may do it. 君はそれをしてよろしい。
{ It may be true. 眞實かも知れぬ。

【三】 can には「何々する事が出来る」と云ふ能力の意味と何々する筈がない」と云ふ強い否定の二つの意味がある。

但し後者の意味の時には打消文に於て而已用ふるのである。

- { I can do it. 僕にはそれが出来ます. (1)
- { It can not be true. 本當の筈がない. (2)

【四】 must には「何々しなければならぬ」と云ふ必要の意味と「何々するに違ひない」と云ふ確實の意味と二つの意味がある。

- { I must do it. 僕はそれをしなければならぬ. (1)
- { It must be true. それは本當であるに違ひない. (2)

作文練習題拾四

1. 僕には出来ません.
2. 僕はそれをしなければならぬ.
3. 僕は明日學校へ行かなければならぬ.
4. 僕は停車場へ行かなくてはならぬ.
5. 僕は飛べます (jump).
6. 君が決め (decide) なければいかぬ.
7. 君は来なくては困る (困るは此場合 must なり他の字を考ふる愚をなす勿れ).
8. あの人は英語で (in English) 手紙が書けます.
9. 君にはそれが出来ますか.
10. 君は英語で手紙が書けますか (疑問文の文例本章になし工夫を要す).
11. 私は行かなければなりませんか.
12. 遊んでよろしい.

13. 入つて (come in) よろしう御座いますか.
14. それを持つて行つて (take) よろしい.
15. それを讀んでよろしい.
16. 歸つて (go) よろしいか (本文の場合「歸つて」は go にて澤山 back を要せず.)
17. あの人は金持 (rich) に違ひない.
18. あの人は支那人に違ひない.
19. あの人は掏摸 (pickpocket) かも知れぬ.
20. それは本當かも知れぬ.
21. 猫かも知れぬ.
22. 猫に違ひない.
23. 猫の筈がない.
24. あの人は辭職する (resign one's post) かも知れぬ.
25. あの人は辭職するに違ひない.
26. それは嘘に違ひない (can を用ふるよ must be untrue と云はずに).
27. 君は英語が話せますか.
28. 英語の話せる人入用 (Wanted を最初に用ふ可し).

He may resign his post.
It must resign his post.
It can not be true.
Wanted a man who speaks English.

第拾五課

助動詞の練習

- | | |
|---|------------------------|
| a | { You must do it. |
| | { You need not do it. |
| b | { You may eat it. |
| | { You must not eat it. |

【一】「ねばならぬ」及「よろしい」は既に前章に於て學びたり。然らば此反對即ち「ねばならぬ」の反對の「するに及ばぬ、しなくともよい」及「よろしい」の反對の「いけない」は何を以て表はすかと云ふに。

【二】必要の must (ねばならぬ) の反對は 不必要の need not (するに及ばぬ) にして 許可の may (何々してよろしい) の反對は 禁止の must not (してはならぬ) である。

- | | | |
|---|----------------|-----------|
| { | must..... | しなければならぬ. |
| { | need not | するに及ばぬ. |
| { | may | してよろしい. |
| { | must not | してはいかぬ. |

但し may not には ないかもしれぬ (又は 許されぬ) の意あれど must not の如き 禁止 の意なし。

作文練習題拾五

1. 君は行くには及ばぬ.
2. 君は書取るには及ばぬ (write down を用ゐよ).
3. 君は此室を (this room) 去つてはならぬ.
4. 君は行つてはいかぬ.
5. 君は這入つて來てもよいが君の妹は入つて來てはいかぬ.
6. 明日は學校へ行かずともよいのだ.
7. そんなに 一生懸命に勉強 (study hard) しなくともよい.
8. マダ (yet) 食つてはいかぬ.

第拾六課

時の前置詞の練習

I get up at 5 o'clock.
I study in the morning.
I sleep at night.

【一】短い時間に at を用ゐ長い時間に in を用ゆるのが通則である。

- | | |
|---|--|
| { | at は <u>時間</u> . |
| { | in は <u>月</u> , <u>年</u> , <u>世紀</u> . |
| { | on は <u>日</u> . |

故に

{ at 5 o'clock = 五時に.
 { in the 19th century = 十九世紀に.
 { in the 42nd year of Meiji = 明治四十二年に.
 { on Monday = 月曜日に.

o'clock は of clock を略したもので邦語の「時」に相当する。故に at 5 o'clock は「五時に」である。又此 o'clock を全く略して at five としても差支ない。hour と云ふのは「時間」で time は度数だ。

比較 { five o'clock 五時.
 { five hours 五時間.
 { five times 五度.

19th は nineteenth の略第十九の意である。之と同様 41st は forty first の略。

七曜の名には皆 on を附する。七曜の名を下に掲げると。

Monday (月曜) Tuesday (火曜) Wednesday (水曜)
 Thursday (木曜) Friday (金曜) Saturday (土曜)
 Sunday (日曜).

其外總て日は on である。

on the 5th 五日に。(day は要さぬ).

on that day 其日に。

【二】 一般に云ふ朝に、夕に、晝に、午後には in を用ふる。

但し夜は at night である。

{ in the morning 朝に.
 { in the evening 夕に.
 { in the afternoon 午後に.
 { in the daytime 晝に.
 { at night 夜に.

【三】 或る期間を表はすには for を用ふる

{ for a week 一週間.
 { for a year 一年間.
 { for a month 一ヶ月間.
 { for many weeks 數週間.
 { for the summer 夏の間は.
 { for the winter 冬の間は.

summer (夏) winter (冬) spring (春) autumn (秋) には普通 in を用ゐて in summer (春に) in winter (冬に) と云ふのである。

比較 { in winter 冬に.
 較 { for the winter 冬中は.

【四】 at は短い時間を表はす故に次のやうな句に用ゐられるのである。

{ at sunrise 日出に.
 { at sunset 日没に.
 { at dawn 昧爽に.
 { at dusk 薄暮に.
 { at noon 正午に.

作文練習題十六

1. 私は朝勉強する。
2. 私は夜分に勉強する。
3. あの人は日出に出発した (started).
4. あの人は薄暮に到着した (arrived).
5. 我々は正午に辨當を食する (eat lunch).
6. 梟 (an owl) は晝は寝る。
7. 夕方に出て来る。
8. 晝寝て夜稼ぐ (work).
9. 冬の間は私は熱海に滞留する (stay at).
10. 私は夏の間は箱根へ行く。
11. あの人は一年間獨逸に居た (has been).
12. あの人は一週間病氣であつた (has been sick).

△ 第 拾 七 課

has been の練習—現在完了補遺

(b) He has gone to Europe.

(a) He has been in Europe.

【一】 現在完了は〔第一〕完了〔第二〕經驗の二つの意味ある事は既に學んであるが或動詞即ち本章に於て學ばんとする has gone 又は has come の如きは第一の意味だけ

あつて第二の意味がない即ち經驗を表はさない。デ此欠を補ふ爲めに has been (行つた事がある。來た事がある) を以てするのである。

【二】 has gone, has come は行つて居る 來て居るの意にして行つた事がある 來た事があるの經驗を表はさない故に has been を以て前二者の欠を補ふのである。

{ has gone 行つて居る。

{ has come 來て居る。

{ has been { 1. 行つた事がある。
2. 來た事がある。

【三】 行き又は來たりした場所か大きな場所なれば has been に in を附し若し小さい場所なれば at を附する。

(場所の前置詞参照)

{ He has been in Europe 歐洲へ行つた事がある。

{ He has been at Nagasaki 長崎へ行つた事がある。

{ He has been to school 學校へ行つて來た所だ。

has been に to を附すると或場所く行つてそこから丁度歸つて來た時を表はすのである。

{ I have been to school.

{ 學校から今歸つて來た所だ。

作文練習題十七

1. 君は洋行した事があるか (ever been を用ゐよ)。
2. 君は米國へ行つた事があるか。

- 3. 君は此處へ (here 又は there には前置詞を要せず) 來た事があるか。
- 4. 君はアソコへ行つた事があるか。
- 5. 僕は一度 (once) コゝへ來た事がある。
- 6. アノ人は曾て僕と共にあそこへ行つた事がある。
- 7. 私は丁度 (just 不要) 上野へ行つて來た所だ (即ち上野から歸つた所だの意)。
- 8. アノ人は丁度學校へ行つて來た所だ。
- 9. 君は丁度野村君の所へ行つて來た所だね。
(君・氏・様 は皆 Mr. (ミスター)。「ね」は I suppose).
- 10. 君は函館へ行つた事がありますか。
- 11. あの人は前に (before) こゝへ來た事がありますか。
- 12. 私はこんな所へ來た事は始めて。
(始めてを first と譯さずともよし)。

第十八課

Voice の練習

I did it.
 It was done by me.
 He will do it.
 It will be done by him.
 She teaches us.
 We are taught by her.

【一】 話の題目となる可き人又は物が働を爲すのを發働調と云ひ之に反して。

話の題目たる人又は物が働を受けるのを受働調と云ふのである。

【二】 結局同じ思想が發働受働の孰れを以ても表す事が出来る。

I did it. 私がそれをした。

It was done by me. それは私がしたのだ。

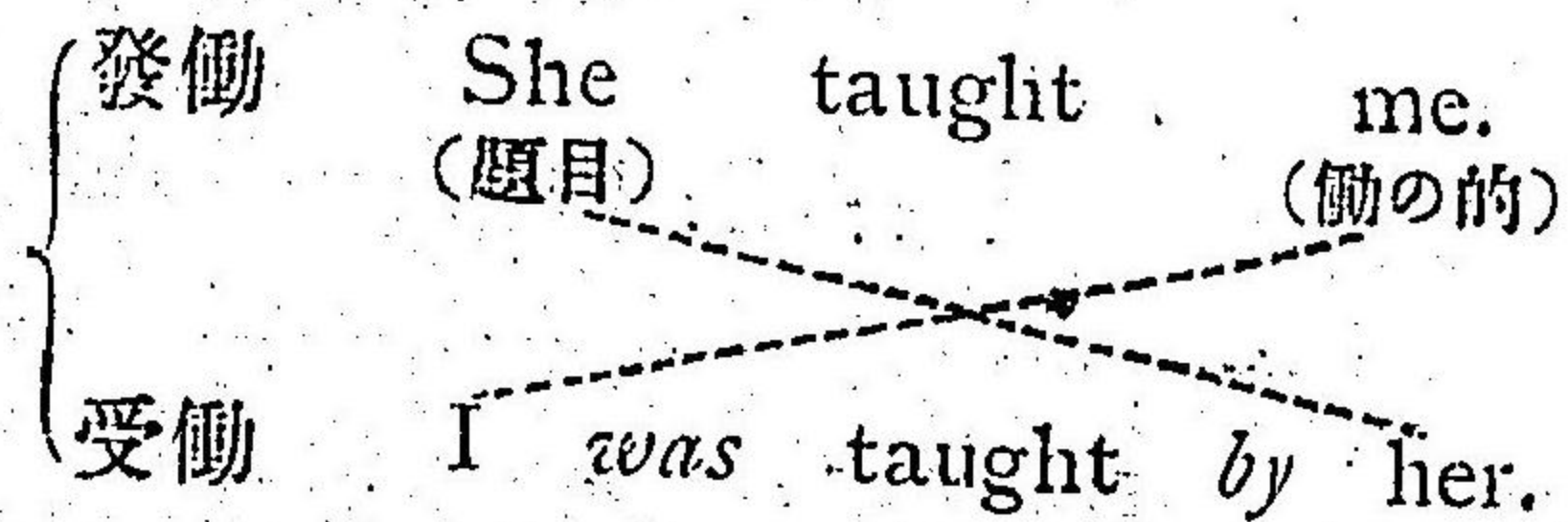
【三】 受働調は to be の動詞 (is, am, are, be 等を to be の動詞と總稱する) と過去分詞 (第拾貳課参照) を結合して作るのである。

to be + 過去分詞 = 受働調。

〔例〕 am + taught.

【四】 發働調で文の題目となつて居る語は受働調では最後に轉じて by と云ふ語と結合し。

又一方發働調で動詞の後にあつて其働の的となつて居る語は受働調では文の題目となつて冒頭に來るのである。



【五】 受働調の時の變化は次の如くである。

- 現在 It ^{by 3rd}is done by him. = He does it.
- 過去 It was done by him. = He did it.
- 未來 It will be done by him. = He will do it.
- 現在完了 It has been done by him. = He has done it.

作文練習題十八

1. 彼れは虎に殺された。
(發動調の時は虎が彼を殺したと云ふ如くす可し以下之に準ず)
2. 彼れは虎を殺した。
(受働調の時には虎が彼に殺されたの如くす可し以下之に準ず)
3. 彼れはそれをしなければならん。
4. 私はそれを見た。
5. 彼等は私を見た。
6. 私はアノ人に依頼する (rely upon) 能はず。
7. 此手紙はアノ女が書いたのだ。
8. 戸は六時に開かる。
(發動調にする時には They を題目とせよ)
9. お父さん、僕がしたのです。
10. 私は出て来る所を彼等に見られた。

第十九課

進行法の練習

I am singing.
 She was singing.
 They have been singing.
 He will be singing.

【一】 現在或る動作が引續いて進行して居るのを表すには英語で進行法と云ふのを用ふる。

例へば「アノ女は歌ふた」と云へば過去であるし「アノ女は歌ふてせう」と云へば未來であるし又「アノ女は歌ふ」即ち She sings は形は現在であるが之れは其女の習慣や職業を表すので現在歌ふて居るのではない。所が She is singing. (彼女は歌ふて居る)といへば丁度今歌ふて居るのである。之を進行法の形と云ふ。

【二】 進行法は to be の動詞に ing を附したものを結合して作るのである。

{ to be + —ing. = 進行法.
 例
 He is walking.

【三】 進行法には現在進行法、未來進行法(或る未來の時に何々しつゝある事)、過去進行法(或る過去の時に何々しつゝある事)等がある。

{ 現在進行.....is, am, are 等 + —ing
 過去進行.....was, were 等 + —ing
 未來進行.....will, (shall) be + —ing.
 現在完了進行...has, (have) been + —ing

是等が其重なるものである。

作文練習題十九

1. 私は今考へて居る (thinking) トコロだ。
2. 彼れは本を讀んで居つた。
3. 彼の女は手紙を書いて居つた。

4. 私は今練習 (the exercise) を書いて居る。
5. 彼れはそれを寫して居る (copying) 所だ。
6. 彼れは祈禱 (praying) をして居つた。
7. 彼れは今授業中だ。
8. 彼れはそれを讀んで居る。
9. 私は勉強 (studying hard) して居る。
10. 彼れは歩いて居る。
11. 彼れは部屋中をアチコチ (up and down) 歩いて居た。
12. 私は今ナイフを削つて居る (sharpening)。

第二十課

現在動詞の練習

He teaches English.

He speaks English well.

I take a walk in the morning.

【一】 前課に於て現今の動作を表すのは、現在進行を用ふると云ふ事を學んだ。

然らば普通の現在動詞は何を表はすか。

【二】 現在動詞は、職業、習慣、性質、材能等を表すものである。

He teaches English. = He is teacher of English.

アノ人は英語の教師だ。

He speaks English well. = He is a good English speaker.

アノ人は英語の會話が旨い。

I take a walk in the morning. = I am in the habit of taking a walk in the morning. 僕は朝散歩する習慣だ。

(附言) 疑問文には do you の形を用ふ。

作文練習題廿

1. アノ人は泳ぎが (swim) 上手だ。
2. アノ人は朝早く (early) 起きる。
3. アノ人は朝早く散歩する。
4. 私は夜早く寐る (go to bed)。
5. 君は朝散歩しますか。
6. 僕は夕方に (in the evening) 散歩しますか。
7. 私は毎日沐浴する (take a bath)。
8. 君は毎朝沐浴しますか。
9. 君は喫煙しますか。
10. アノ人は東京英學校で英語を教へる。

第廿一課

過去完了の練習

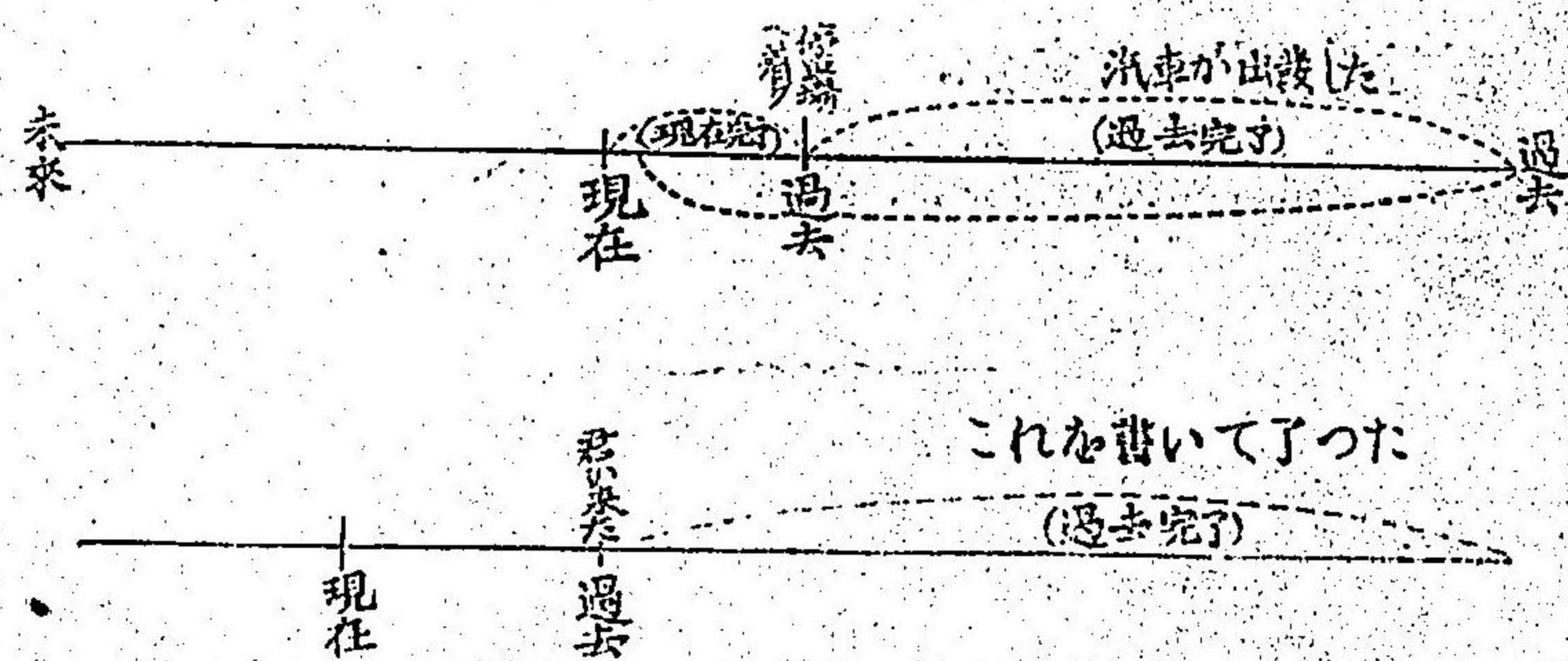
I had written it before you came.

The train had started before he got to the station.

【一】 現在完了は現在に於て或る動詞が完了をしたのであるが。

過去完了と云ふのは或る過去の時に於て或る動詞が既に完了した事を表すのである。

例へば The train had started before he got to the station といへば停車場へ着いたのが既に過去の時であるのに汽車の出発したのは其又前に起つたのである。斯く或る過去の時の前に既に爲されりたる動作を過去完了と稱するのである。



(注意) 過去完了は had に過去分詞を附して作るものである。

比較 { had + 過去分詞 = 過去完了
 { have (has) + 過去分詞 = 現在完了

作文練習題廿一

1. それ以前 (before that time) 私は彼れに會つた事がある。
2. 我々が行つた時には既にそれは始まつて (begin の過去分詞を用ゐよ) 居た。
3. 彼れは彼れの父が歸つた (returned) と云ふた (said)。
4. 彼れは自轉車を買つた (bought) と云ひました。
5. 汽車が出て了つた後で私は停車場に着した。
6. 私が出發した後で君の手紙 (letter) が着した。
7. 亞米利加に行く前に少しは (a little) 英語を學んで (learned) 置いた。
8. 私が参りました時に彼れは既に出發して了いました。
9. 彼れは私に前に會つた事があると申しました。
10. 私は彼の女を知つて居ました (knew). 何故かと云へば其前に會つた事がありましたのですもの。

第廿二課

自動詞他動詞の練習

I saw a tiger.
 The tiger saw me.
 She sings sweetly.
 He will soon come here.

- 【一】 I saw him.
- I love you.

の如く動詞の後に其働の的となる可き語を取る事あり、之を動詞の目的 (object) と云ふのである。

(愛する人)	(働)	(愛する的)
I.....	love.....	>you
(見る人)	(働)	(見る的)
I.....	saw.....	>him

【二】 目的 (object) を有する動詞を稱して他動詞 (transitive verb) と云ふのである、この名は動作が他の者まで移り及ぼす處から付した名である。

故に love, see 等は他動詞である。

【三】 動詞の表はす動作が他に及ぼさないでそれ自身に止まる動詞を稱して自動詞 (intransitive verb) と云ふのである。

例へば

She sings sweetly.

彼の女は上手に歌ふ。

と云へば sing (歌ふ) と云ふ動作は他の者に及ぼさないのである。言葉を換へて言へば歌ふと云ふ働を受ける的がない。sweetly (上手に) と云ふ言葉はあるがそれは歌ふと云ふのを形容した丈けて歌ふの働を受けて居はしない。故に She sings と云ふのはそれ自らに働を留めて他に及ぼさない處から sing の如き動詞を自動詞 (intransitive verb) と云ふのである。

He will soon come here.

直きにこゝへ参ります。

も然りである。come と云ふ動作の及ぼす可き的がない。here と云ふ語はあるがこれは來るのはどこへか、爰へと云ふやうに come を形容した丈けて come と云ふ語の動作を受けない。I love you の love と you の關係とは大違ひである。故に此 come も自動詞である。

【四】 同じ語でも時としては自動詞又時としては他動詞に用ゐられる。

- { (自) I read in the morning.
- 私は朝に讀書する。
- { (他) I read a book.
- 私は本を讀む。

諸君が字書を引く時 t. v. とあるのは其動詞が transi-

tive verb に用ゐられた時の意義であるし i. v. とあるのは intransitive verb に用ゐられたと云ふ略語なのである。

作文練習題廿二

1. アノ人は電車の中で (in the car) 讀書する。
2. アノ人は早く (fast) 讀む。
3. 私はその本を三度讀んだ。
4. 私は彼れの友人の加藤君に會つた。
5. 私はそれを好まぬ。
6. 君は早く走られますか。
7. 競走 (race) をしやう (run) ではありませんか。
8. 彼れは猫を飼つて (keep) 居る。
9. 一晚中眼を醒まして (awake) 居た。
10. 彼は軍人 (soldier) になつた。
11. 君は軍人になれば、好い軍人になれます。
(なればなれる = make)
12. アノ人は力士 (wrestler) になれば立派な (fine) 力士になれる。

(注意) 練習十一十二の make は他動詞にあらず。

第廿三課

Adverbs の練習

She sings sweetly.

He comes here every night.

The flower is very beautiful.

When did she sing?

How did you know it?

【一】 副詞とは動詞形容詞及副詞に添へて多少其意義に變化を興へる語を云ふのである。

例へば sing (歌ふ) と云ふ動詞を sweetly (上手に) で多少其意味に變化を興へて居る。

comes と云ふのへ here と every night を添へて其意味を加減して居る。即ち彼の來るのは何處か、here である。いつか、即ち every night であると云ふやうに come を多少形容して居るそれで every night の如く二語以上で副詞の役をするものを副詞句と云ふのである。

【二】 sweetly

well

wisely

のやうな各々それ自らの意義を有するものを simple adverb と稱する。

here

there

where

anywhere どこへモ

nowhere どこニデモ

somewhere どこカニ

等を場所の副詞と稱する。又

then (其時) every night (毎晩)

now (今) one night (或晩)

before (前ニ) some day (イツカ)

等を時の副詞と稱する。

How? (イカニ, どうシテ)

Why? (ナゼ)

Where? (どこニ, デ, ヘ)

When? (イツ)

How long? (イツカラ)

How far? (どこマデ)

等を疑問副詞と稱する。

作文練習題廿三

1. 私は其時は マダズブ (only a little) 子供でした。
2. 私は當時 六歳 (six years old) でした。
3. 私は毎晩其所へ参りました。

(註) 参りましたは單に went とせず used to go とせよ。used は
連続せる過去の習慣を表す。

4. ナゼ君はそれをしたか。
5. ナゼ来なかつたか。
6. イツ君は 歸り (return) ましたか。
7. 私は 昨日 (yesterday) 歸りました。
8. どこマデ行きましたか。
9. 君は 何歳 ですか (How old.....?)
10. イツか 教へて (teach) 上げませう。
11. どうシテ爰へ来たか。
12. どこへも参りませんでした。
13. アノ人はどこかへ 参りました (has gone)。
14. アノ人は能く英語を 話す (speaks)。
15. 或日彼れは 河へ (to the river) 参りました。

迄

第廿四課

As と so の練習

He is as strong as an ox.

I am not so strong as he.

I ran as fast as I could.

The more, the better.

前章に副詞を説きたる序にて副詞のイデオムに付き
て少しく説明しやう。

【一】 as.....as と so.....as 是等を「事程左様に」と譯を付けたは一昔先の夢。

as.....as は「...のやうに」「...と同じやうに」の意であつて。

so.....as は「...のやうに...ない」「...程...でない」と云ふ打消の意。

例

He is as strong as an ox.
牛のやうに強い
I am not so strong as he.
あの人のやうに強くはない

即ち as.....as の方は肯定又 so.....as の方は打消に用ふるのである。

【二】 as.....as に can が付くと「...し能ふ丈け...」の意となる。

I will go as fast as I can.

出来る丈け早く参りませう。

【三】 [the+比較級+the+比較級] の形に於ける the は冠詞でなくて副詞であつて「...すればする程」「...あればある程」の意味である。

The more, the better.

多ければ多い程よい。

The sooner you come, the better it will be.

君は早く来れば来る程よい。

作文練習題廿四

1. 出来る丈早く (quickly) 来給へ (come を文章の始に置く可し。
2. 彼れは私と同じ丈の高さだ (tall).
3. 彼れは私程丈が高くない.
4. これはそれ程よくない.
5. 私の帽子は君の程汚くない.
6. 此本は新も同様です (as good as new).
7. あの人は英語を旨く話すが併し先生程旨くは話せない。
8. 先生は西洋人 (a foreigner) 同様旨く英語を話す。
9. 此事が早く悟れれば早い程よい.
10. 高ければ高い程寒くなる (becomes).
11. アノ人は狼のやうに飢へて居る (hungry).

He is too ready to speak.
彼は餘り既に話せる。

第廿五課

Too, Enough, as...as...ever, more
than...ever 等の練習

He is too old to do it.

She is old enough to marry.

He was kind enough to show
me the way.

He is as strong as ever.

He is stronger than ever.

【一】 He is too old to do it. を「之れを爲す可く餘りに年老いて」と譯せしも過去の夢。

こはよろしく「年をとりすぎて居るからそれは出来ないと譯する方がよい。即ち too...to の内には can not の打消の意が含まれて居るのである。

【二】 enough を「充分」と譯するも舊式にして

She is old enough to marry.

結婚の出来る丈の年齢になつて居る。

と譯す可し又

He was kind enough to show me the way. は
親切にも道を教へて呉れた。

の意であつて此場合の enough は so...as を以て表す事も出来る。

{ He was kind enough to show me the way.

{ He was so kind as to show me the way.

【三】 as...as ever は「不相變」の意で

more...than ever は「益々」の意である。

{ He is as strong as ever.

{ 不相變壯健だ。

{ He is stronger than ever.

{ 益々壯健だ。

作文練習題廿五

1. アノ人は不相變親切です。
2. 子供は益々大きな聲で (louder) 泣いた。
3. 彼れは愚にも彼女を信じた (trust).
4. 彼れは親切にも私の爲めに (for me) それをして呉れた。
5. 猫は小さすぎて鼠が取れ (catch) なかった。
6. 彼の人若過ぎていかん (too のみにて後に to を要せず)。
7. アノ女は結婚するにはマダ若過ぎる。
8. 私は足疲れて (tired) 歩けなかった。
9. あの人なら年を取つて居るから十分それが出来る。

10. あの人は忙しくて (busy) 私に會へ (see) ませんでした。

第廿六課

時の副詞の練習

I have met him before.
 I saw him three years ago.
 I see him again.
 He is always cheerful.
 He often comes here.
 He came here the other day.

本課に於ては時の副詞の意義用法に付いて研究しやう。

【一】 before と ago. before は前にの意味であるが一週間前にとか三年前にとか時を明示する句が付く時には before を用ゐないで ago を用ふるのである。

比較 { I saw him once before.
 前に一度あの人に會つた事がある。
 I saw him three years ago.
 三年前に彼れに會つた。

尙これと類した時の副詞に since (以來、爾來) と云ふのがある。

例 I have never seen her since.

爾來彼女にとんと會はぬ。

【二】 again は「再び、又」等の意である。

Come again.

又入らッしやい。

again には又次のやうな用法がある。

again and again 再三再四

never again 最早再び

now and again 折々

【三】 always は「常に」「始終」の意味である。

He is always cheerful.

あの人はいつも快活だ。

always の前に not のやうな打消の言葉があると其場合の (not+always) は「必ずしも……ならず」の意となる。

{ not always good.

{ 必ずしも……善ならず。

【四】 often (屢々).

the other day (先日、此間).

に類する時の副詞及副詞を擧げて見ると。

sometimes 時としては。

first 始め。

now 今。

just (1) 丁度. (2) チョット。

yesterday 昨日。

to-morrow 明日.
 the day before yesterday 一昨日.
 the day after to-morrow 明後日.
 last year 昨年.
 this year 今年.
 next year 明年.
 the year after next 明後年.
 the year before last 一昨年.
 this week 今週.
 last week 先週.
 next week 來週.
 (month も同断)
 one day 或日, (過去).
 some day 何時か(未來).
 one of these days 近日(未來).
 every day 毎日.

作文練習題廿六

1. 私は明日参ります。
2. 私は來週又参ります。
3. 又いらつしやいよ (please).
4. 毎日いらつしやいよ。
5. 昨日私は B 君を訪問 (call on) しました。
6. アノ人にあつたのは三年前です。
7. 以來チツトモ (never) 會ひません。

8. 又お目にかゝります (I hope).
9. 彼女は昨日着しました。
10. 私の父は一昨日歸りました。
11. 私の母は明後日歸るでせう。
12. 私はさ來年歸ります。
13. 最早再び歸るまじ。
14. 善者 (A good man) 必ずしも賢 (wise) ならず。
15. 再三再四彼れに頼んだ (asked).
16. 近日お伺致す可く候。
17. 先日は御馳走様 (Thank you for.....).
18. 又参ります。

第廿七課

much と very の練習

附副詞の形と位置

You are a **very** good boy.
 I am **much** pleased to see you.
 He returned **late**.
 He returned **lately**.
Happily she did not die.
 She did not die **happily**.

【一】 very は形容詞及副詞を形容する事の出来る副詞だが直接動詞を形容する事が出来ぬので此場合には much を用ふる。

I like it very much
 (動詞) (副詞) (副詞)

much は過去分詞から出たる形容詞を形容し very は ing で終る形容詞を形容する。

This is a very interesting book.
 これは甚だ面白い本です。
 I am much interested in it.
 私はそれに非常に興味を感じます。

much は比較級の形容詞を形容する爲めに用ゐられる。

This is much better than that.
 これはあれより餘程よい。

【二】 副詞で ly の附したのと附さないのと二つの形を有して居るものがある。それで ly のあるのと無いのとてそれぞれ異なる意義を有して居るのがある。例へば次の如きものもある。

He returned late at night.
 アノ人は夜遅く歸ツてきた。
 He has lately returned from abroad.
 彼の人は近頃外國から歸ツて來たのだ。

是等の副詞のうち最も其相違の顯著なるものは次の如きものである。

Hard = { (a) 一生懸命に { study hard
 work hard
 (b) ヒドク. 大いに { rain hard
 blow hard
 Hardly = 殆んど.....ない { hardly possible
 殆んど出来ない

{ near = 近くに
 { nearly = 殆んど (almost と同じ)
 { short = 短く, 簡短に
 { shortly = 近頃, 其うち
 { quick 早く (=fast, at once)
 { quickly 忽ちに (=soon)
 { fair 奇麗に
 { fairly 公平に

【三】 副詞の配置順序と云ふ事は英作文に於て最も困難な且つ必要な事である。と云ふのは副詞の配置順序如何によりて次の如き意味の上の差違を生ずる事がある。

Happily she did not die.
 幸にも死ななかつた。
 She did not die happily.
 幸福な死方をしなかつた。(不幸な死を遂げた)。

されど副詞に依りては文章中何れの位置にありても格別意味に關係しないものがある。

兎に角 副詞は其形容する語の最も近くに置く可しと云ふ事を第一に覺へなければならぬ。

【四】副詞を文章の冒頭に置くのは其文章の意味を強める爲めの場合が第一。

Here we are again.

サア又コゝへ來た。

Once and once only, let me see her.

一度、タツター度ていゝから會はせて呉れ。

第二の場合は其副詞が文章全體を形容する時である。
例へば

Happily she did not die.

の happily は she did not die 全體を形容して居る。又

Perhaps he will come.

多分 彼は來るでせう。

に於ける Perhaps は he will come 全體を形容して居る。

作文練習題廿七

1. 大きに有難う (Thank you).
2. これはそれより餘程大きい。
3. 次郎は太郎より餘程利巧だ。
4. アノ人の云ふ事 (him) は殆んど解 (understand) らない。
5. 多分君は成功 (succeed) するでせう。
6. 君は随分勉強 (study hard) して居たから (as).
7. アノ人は一生懸命に働いて居る。
8. 早くもいで。

現在
門外

9. それは甚だ不甲議 (strange) だ。
10. 私は餘程驚いた (surprised).
11. 彼れは去年よりも (than he was last year) 餘程勉強して居る (diligent なる形容詞を用ゐよ)。
12. 彼れは甚だ明瞭に (clearly) それを説明した (explained).
13. 彼れは殆んど氣絶した (fainted).
14. 彼れは學校の (school) 近くに住む (live).
15. 雨がザアザア降つて居た。
16. 風はビュービュー吹いて居た。

第廿八課

接續詞の練習

You and I are intimate friends.

He is old, but he is strong.

I shall not go if it rains.

Shall I go or remain?

I can not go as it is late now.

【一】語と語・句と句・文と文を結付け或は又句と語・語と文杯を結合するものを接續詞 (Conjunction) と稱し上

掲の例文中の and, but, as, or, if 等は皆此 conjunction である。

【二】 And は邦語の「と」又は「そして」の意味である。

You *and* I are intimate friends.

君と僕とは親友です。

Cats *and* dogs.

猫と犬。

數多の語が重なり合ふ時には and は最終の語の前に置かれるのである。

Taro, Jiro, Hana *and* Tama are all brothers *and* sisters.

and は次のやうな場合（命令文の後）には「然らば」と云ふ意味となるのである。

Study hard, *and* you will succeed.

勉強せよ然らば成功せん。

【三】 But は邦語の「が」又は「が併し」の意味である。

He is old, *but* he is strong.

彼れは年は老いて居るが丈夫だ。

but に類似せる語は yet (さは云へ)であるが yet は Though (假令)と連關して用ゐらるゝ事が多い yet が單獨に用ゐられると but と殆んど等しいものとなる。

{ Though he is old, yet he is strong.

{ 假令彼れ老たるも尙丈夫なり。

【四】 if は邦語の「若し……ならば」の意味である。

{ I shall not go if it rains.

{ 若し雨が降るならば参りません。

【五】 or は「又は」「或は」の意味と「然らざれば」の兩意義を有するのである。

Shall I go *or* remain?

参りませうか又は残りませうか。

an Englishman *or* an American.

英國人か又は米國人。

Study hard *or* you will fail.

勉強せよ。然らざれば失敗せん。

【六】 as には (1)「の如くに」(2)「として」「の資格で」(3)「故に」(4)「時に」等他の用法も少くないが最も普通なる此四用法に就いて研究して見よう。

(1) の如くに。

black *as* ink インキの如くに黒く

white *as* snow 雪のやうに白く。

(2) として。

He is treated *as* the master.

主人としての待遇を受けて居る。

(3) 故に。

He is weak *as* he is old.

彼れは年老いてあるが故に身體弱し。

(附言) for, because は共に「故に」の意味であるが for は理由を、because は原因を表し、as は此兩者に比して其意味が一層輕いのである。

(4) 時に。

The sun rose *as* I got up.

【七】 尚此外に次の Conjunctions の用法の一般は知つて置く必要がある。

so (それ故に)

that (事を)

so... that (何々.....だから)

for (何となれば)

till (迄)

before (前)

when (時に)

while ((1) 間に (2) 之に反して)

文例

I do not doubt *that* he will succeed.

彼れが成功するだらうと云ふ事を疑はぬ。

He ran *so* fast *that* I could not catch him.

あまり早く走つたものだから追付けなかつた。

She is pretty, *while* her sister is rather homely.

彼女は美しいが之に反して彼女の姉さんはドツ

チかと云へば十人並より下る。

作文練習題廿八

1. 若し雨が降るなら出發 (start) しません。
2. アノ人は若い故に丈夫だ。
3. アノ人は若いが虚弱だ。
4. アノ人は貧乏だが正直だ。
5. 急げ (make haste) 然らざれば遅れる (late) ならん。

6. 故に私は彼れを好まぬ。

7. アノ人のお父さんは丈が高いが、それと反對にお母さんは背低だ。

8. アノ人は日本人 (Japanese) ですか又は支那人ですか。

9. 辛抱せよ (persevere) 然らば成功せん。

10. 遅いから行くのはいやだ。

11. マダ早いから僕と一緒に (with) 來給へ。

12. 桂侯爵 (Marquis Katsura) は軍人で又政治家 (statesman) である。

第廿九課

普通固有名詞の練習

He is a boy.

He is Taro.

We live in a city.

We live in Tokyo.

I will go one of these days.

I will go next Sunday.

【一】 boy と云へば總て年少の男子は boy である。city と云へば東京而已ならず大阪でも Manchester でも New York でも皆な city で通ずる。day と云へば日曜日でも土曜日でも天長節でも何でも day である。

斯の如く階級のいづれにも通ずるものを Common Noun (普通名詞) と稱して居る。

之に反して或る特別なる人・土地・物に付した名を Proper Noun (固有名詞) と云ふのである例へば Taro, Tokio, Sunday の如きである。

【二】 固有名詞の主なるものは。

人名—Kato Kiyomasa, Napoleon, Taro Katsura.

地名—New York, Osaka, Nihonbashi, Kanda.

日月祭日等の名—Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday (以上日、月、火、水、木、金、土)

January (一月) February (二月) March (三月)

April (四月) May (五月) June (六月)

July (七月) August (八月) September (九月)

November (十月) October (十一月) December (十二月)

Emperor's Birthday (天長節)

Christmas (聖誕節)

【三】 固有名詞は常に大文字で書始める。

【四】 固有名詞には a, the の冠詞を要さない。

又複数にもならないのが普通である。

(例外は後を見よ)

【五】 普通名詞は單數の折には a か the か必ず冠詞を要するのである。

{ I am a boy.

{ I am the boy who did it.

普通名詞が複數の時は通常 a に對する some を用ふるのである。

some は若干の意で邦語では「庭に小供が居る」と云ふて若干のとか幾らかの杯とは決して言はぬが英語で斯かる場合其子供が一人 (a boy) でもなく又幾人と數が定まつて居るのでもない時には some を用ゐて。

These are *some* boys in the garden と云ふのである。

複數普通名詞に冠詞の the を附するとそこにあるもの全體を表すのである。

The *flowers* were open.

其邊の花皆咲けり。

Put the *pens* in the box.

箱の中に其ペンを(皆)入れよ。

{ We are the *students* of this school. (生徒全體)

{ We are *students* of this school. (生徒の一部)

複數普通名詞に the も some も何も附さんとそれが階級全體を表すものである。

Students must persevere.

學生たるものは忍耐す可し。

Dogs are faithful.

犬と云ふものは忠實なものだ。

【六】 固有名詞は冠詞を要しないと云ふ事を前に述べたが次の如きものは定冠詞の the を附するを常として居る。

- (1) 河海港灣の名.
the Sumida.
the Shinano River.
the Japan Sea. (日本海).
the Tokyo Bay. (東京灣).
- (2) 船の名.
the Osaka-maru.
the Mikasa.
- (3) 書籍新聞雜誌の名.
the Nihon Gwaishi.
the Makaze Koikaze.
the Jiji Shimpo.
the Eigakusei.

作文練習題廿九

1. 何新聞を (what paper) お取り (take) ですか。時事新報を取つて居ます。
2. 何雑誌をお讀ですか。英學生と英語研究を讀んで居ます。
3. 私は東京で生れた (was born).

4. アノ人は大阪で生れた。
5. 猫は犬程忠實ではない。
6. 我々は學生です。
7. あの紳士達は我校の先生です。
8. ペンが一本欲しい (I want).
9. そのペンを下さい (Give me).
10. 金曜日 に (on) 参りませう。
11. 木曜日に来ないか。
12. 信濃川は 日本で (in Japan) 一番長い川だ。
13. 日本海々 戦 (battle).
14. 桂太郎は 總理大臣 (premier) だ。
15. 私は子供の時日本外史を讀んだ。

第 卅 課

集合名詞の練習

The Japanese are a brave people.

People say that there is going to be a war.

【一】 國民とか家族とか云へば唯一人で國民又は家族は成立せぬ、是非共多人數又は數人が集合して國民又は家

族を作るのである。斯く國民家族の如く集合體を表はす名詞を Collective Noun (集合名詞) と稱するのであるが最も重なる集合名詞は次の如きものである。

people (人民)	mob (一揆)
nation (國民)	army (軍隊)
family (家族)	crew (乗組員)
infantry (歩兵)	cavalry (騎兵)
artillery (砲兵)	committee (委員)
crowd (群)	

【二】 集合名詞は普通名詞と性質が同じきものであるから 複數にもなり又單數の時は冠詞の a (或は the) を取るのである。

{ a family	{ army
{ families	{ armies
{ a people	{ a nation
{ peoples	{ nations.

【三】 集合名詞は (1) 集合體其物を表す時もあり又 (2) 集合體を組織する個人を表す事もある。

集合體其物を表す時には名詞の意味は單數である。集合體を組織する個人を表す時には名詞の意味は複數である。此は常識で考へても解る事だらう。

{ (集合) There is only one <i>family</i> .	そこには只一家族ある。
	(個人) My <i>family</i> are all very well.
	家内の者共皆壯健です。

{ (集合) The Japanese are a brave <i>people</i> .	日本人は勇敢な國民だ。
	(個人) The <i>people</i> love their king.
	人民は其王を愛す。

是も普通なる集合名詞に關する注意

People 此字に次の三様の意義がある。

{ the people = 人民
{ a people = 國民
{ people = 人々 (世間の)

{ (文例) The Japanese are a brave <i>people</i> .	<i>The people</i> love their king.
	<i>People</i> say that there is going to be a war.

Family 家族の者共を表す時には意味は複數で、家族と云ふ集合體を表す時には意味は單數であるが時としては形が複數になる事がある。

{ My <i>family</i> are all very well.
{ There are three <i>families</i> in the village.

Class 級の人員と云ふ意味で普通複數の意に用ふるが時としては單數にも用ゐられる。

{ The <i>class</i> is very small to-day.
{ 今日 (今日) は出席者が少ない。
{ The <i>class</i> are all very diligent.
{ 此級の者は皆勉強家だ。

Alphabet アルファベットは無論一字で出来るも

のでなく数字が集まつて各國語の alphabet を作るのであるが故に alphabet なる語は集合名詞であるが形は常に單數である。

The English alphabet has twenty-six letters.

英語のアルファベットは廿六字ある。

尤も數國語の alphabet と云ふ時には複數になるのである。

作文練習題卅

1. 御家内皆々様如何に暮し被遊候哉 (getting along).
2. 御家内皆々様御丈夫ですか (well).
3. 私共の家族は皆丈夫です。
4. 支那人 (the Chinese) は 勤勉なる (industrious) 國民である。
5. 人民は王を愛し王は人民を愛する。
6. 人の噂に依ればあの人は 辭職する (is going to resign) さうです。
7. 世間の人には 私の事を (of me) 何と云ふだらう。
8. 世間の人は何と云ふたとして 構はぬ (I don't care).
9. 亞細亞の諸國民 (「諸」は英譯するに及ばず)。
10. 戦争 (a war) があるなんと云ふ世評だ。
11. 騎兵は 勝利を占めた (victorious).
12. 歩兵は 敗軍した (defeated).

13. 其村には五軒の家族がある。
14. 英語と佛語のアルファベットは能く似て居る。
15. 英語のアルファベットは幾字ありますか。
16. 廿六字御座います。

第卅一課

物質名詞の練習

Give me a glass of wine.

The table is made of wood.

【一】物を作る物質材料の名を Material Noun (物質名詞)と稱するのである。

例へば

The table is made of wood.

と云へば table なる語は食卓と云ふ種類の何れのものにも通ずるが故に是は普通名詞であるが wood (木材)と云ふ時には其tableの作られたる材料を云ふので之を物質名詞と稱するのである。

【二】斯く總て物を作る材料となるもの、名は物質名詞である。

wood (木材)	metal (金屬)	ivory (象牙)
bone (骨)	glass (玻璃)	wool (羊毛)
earth (土)	stone (石)	brick (煉瓦)

等は各々物質名詞である。

【三】 液體及瓦斯の名は皆物質名詞である。

wine (酒) water (水) oil (油) air (空氣)
smoke (煙).

【四】 食料品等の名は通常物質名詞である。

sugar (砂糖) salt (鹽) rice (米)
sauce (醬油) meat (食肉) fish (魚肉)
bread (パン)

但し { bread パン
biscuits ビスケット

以上に對する例外は果實の名であつて之は普通名詞である。

an apple (林檎) peaches (桃)
pears (梨子) oranges (蜜柑)

【五】 金屬の名は物質名詞である。

gold (金) silver (銀)
iron (鐵) copper (銅)
lead (鉛) nickel (洋銀)

【六】 物質名詞に就きて注意すべき事はそれが數で數らへれぬと云ふ事である普通名詞の boy, table, pen 如きは a boy, two boys, a table, three tables, a pen, four pens の如くに數で數へ得るが物質名詞の wine, water 如きは a wine と云ふを得ぬ。two waters と云ふ事も出来ない。其他 a bread も a silver もいかぬ。

(a loaf of bread とか a silver watch の如きはよいが)。

斯く數で數へる事が出来ない故に物質名詞は不定冠

詞の a を附する事をしないし又複數にする事もない。

【七】 物質名詞に定冠詞を附せぬと其物質全般を表すのである。

Air is light 空氣は輕し。

Glass is brittle 玻璃は脆い。

【八】 物質全般を表さぬ時には物質名詞は some (疑問打消には any) を取るのである。

Give me some water.

水を呉れよ。

(水一般の意味に非ず。若干の水と云ふ意なれど邦語にては若干の水杯と云はずされど英語にては some を附すものと記憶せよ)。

物質の或る特別なる分量を云ふ時には the を其前に附す。例へば「其井戸の水」と云へば是れ一般の水に非ずして特に其井戸にある水と特定する故に。

the water of that well

と云ふのである。

又

the fish we ate at dinner

晝食の折食したる魚。

と云へば一般の魚に非ずして特に晝食の折食したると指定せるが故に the を附したるのである。

物質名詞の三用法

- 一般.....I like wine.
- 若干.....I want some wine.
- 特定.....The wine we took at supper.....

(附記) some は material noun に多く用ゐらるゝ語である。

【九】 同一の語で其意味に依りて或は物質名詞に又或は普通名詞に用ゐらるゝものがある。

下の如きは其最も著しきものである。

物質	普通
It is made of <i>glass</i> . (ガラス)	a <i>glass</i> of wine (一杯の酒)
I like <i>fish</i> . (魚肉)	a <i>fish</i> in the water (水中の魚)
<i>water</i> (水)	the Japanese <i>waters</i> (日本海)
iron (鐵)	irons (槌借)
wood (木材)	a wood (一種の木材)
stone (石材)	a stone (石)
(例 The house is built of <i>stone</i> .)	(例 Don't throw <i>stones</i> at a dog.)
bone (骨)	a bone (筋骨)
(例 It is made of <i>bone</i> .)	(例 He broke a <i>bone</i> .)

作文練習題卅一

1. 私は肉 (meat) が好きです。
2. 晝飯に食した肉は硬く (hard) あつた。
3. 其橋 (bridge) は石造である。
4. 小兒は石を投げるものではありません (should never).
5. 彼女は骨を挫いた (broke).
6. 水は無色透明だ (colourless and transparent).
7. 此机は木で出来て居る (desk).
8. 君のパイプ (pipe) は骨で出来て居るか。
9. イ、エ僕のは象牙細工だ。

10. 空気は水より輕し。
11. 茶を一杯 (a cup of tea) 下さい。
12. 酒を一杯下さい。
13. 其井戸の水は飲用に適しない (is not good to drink).
14. パンを食べた。
15. 獸肉は魚肉よりか滋養に (nourishing) なる。
16. 金を下さい (money).
17. 其時計は金ですか (of を用ゐよ)。
18. イ、エ銀です。
19. パン一片 (a slice).
20. 木材一本 (a piece).
21. 紙一枚 (a sheet).
22. 水一滴。水(桶に)一杯。
23. 米一握り (a handful of).
24. 鹽一匙。
25. 砂糖一塊 (lump).

第卅二課

抽象名詞の練習

Knowledge is power.

Beauty is but skin deep.

【一】性質状態等各々無形の物の名を抽象名詞と稱するが、これは或物象より其性質を抽去ッて其 quality 而已を云ふからである。例へば honest man と云ふ有形のものから其人の性質即ち honesty (正直な事) を抽取ッたる honesty と云ふのは抽象名詞 (Abstract Noun) である。

次に抽象名詞の例を少々挙げる。

Bravery (勇氣)	cowardice (臆病)
wisdom (智慧)	folly (愚)
knowledge (智識)	ignorance (無智)
goodness (善)	badness (悪)
beauty (美)	ugliness (醜)
truth (眞理)	falsehood (虚偽)
life (生)	death (死)
health (健康)	illness (病)
happiness (幸福)	misfortune (不幸)
diligence (勤勉)	idleness (怠惰)

【二】抽象名詞は其性質が前章に論じた物質名詞と能く似て居る複數になる事もなければ不定冠詞の a をとる事もない。

【三】抽象名詞が一般の意味に用ゐられると冠詞を要さない。(これは物質名詞と同じ)。

Knowledge is power.

智識は力なり。

Love is sweet.

戀は甘し。

Falschhood is cowardice, truth is courage.

虚偽は臆病なり眞理は勇氣なり。

抽象名詞は the を取る事もあるが之は或る指定した性質等を云ふ時て後に of 云々が來る時に多い。

The wisdom of Socrates.

ソクラテースの智

the folly of his conduct

彼れの行爲の愚。

【四】同じ名詞でも其意味に依り或は抽象名詞に或は普通名詞に用ゐられる事がある。

抽象

Truth is courage.

Beauty is but skin deep.

There is no room for doubt.

(疑ふの餘地なし)。

I learn composition at school.

(學校で作文を教ゆる)。

sight (視力).

wonder (驚異)。

普通

This is a truth (事實).

She is a beauty (美人).

There is a vacant room upstairs.

二階に明間あり。

I am writing a composition.

(僕は文章を書いて居る)。

a fine sight (美觀).

seven wonders of Honjo.

本所七不思議。

【五】貴人の尊稱に關する抽象名詞に付き注意すべきものは略次の如くである。

Your, His, Her (Imperial) Majesty 天皇, 皇后陛

下 (略して H. I. M. と云ふ。複數は Their Majesties 「兩陛下」)。

Your, His, Her (Imperial) Highness 殿下。故に「皇

太子殿下」を英譯すれば、His Imperial Highness (H. I. H.) the Crown Prince と云ふ。

Your, His Excellency (閣下).

Your, His Honor (閣下又は殿).

作文練習題卅二

1. 皇太子殿下は目下葉山に御滞在 (staying at) 中。
2. 兩陛下は日光に向け御出發あらせられたり (started for).
3. 伏見宮殿下は目下英國に (in England) 御滞留中なり。
4. 伊藤公 (Prince Ito) は昨夜大磯着。閣下は此夏を大磯に過させ給ふ由。
5. 閣下の御意見は如何 (opinion).
6. あの女も昔しは (once) 美人だつた。
7. 此事件に付きては最早疑を容れる餘地なし。
8. 二階にモット宜い部屋がある。
9. 僕は阿諛が嫌ひだ。
10. 僕は今作文を學んで居る。
11. 實に (indeed) 美觀だつた。
12. 越後の七不思議。
13. 人生は短し。
14. 死は愉快なり。
15. 人生は夢なる而已。
16. それは健康によろしくない。

17. 加藤清正の勇武。
18. 忍耐は成功に必要 (essential to) なり。
19. 大將は部下の勇氣を賞した (praised).
20. 幸と悲哀。
21. 幸か不幸か。

第卅三課

複數の練習

I shot a deer.

I shot three deer.

Do you feel any pain?

No pains shall be spared.

【一】 或る名詞は單數も複數も其形の同一なものがある。次の如きものは其一二である。

deer (鹿)

sheep (羊)

swine (豚)

cannon (大砲)

salmon (鮭)

fish (魚) (fishes と云ふともある)

故に一匹の鹿と云ふ時にも a deer なら三四の鹿と云ふ時も three deer で three deers とは云はぬのである。

(附記) 邦語の *sen* (錢) *yen* (圓) の如きは複数の時でも *s* を取らぬ。

5 *yen* ten *sen*

【二】 名詞の中には複数の形を二つ有して居るのがあ
る。そして其二つの複数の形は各々異なる意義を有して
居る。例へば

單	複
Brother	{(1) Brothers 兄弟 (2) brethren 同胞
cloth	{(1) cloths 織物類 (2) clothes 衣服
staff	{(1) staffs 參謀 (2) staves 杖

【三】 名詞に依りては單数の意味と複数の意味と各々
違つて居るものがある。

單	複
air (空氣)	airs (風采)
force (力)	forces (軍勢)
good (善・益)	goods (品物)
iron (鐵)	irons (桎梏)
sand (砂)	sands (砂原)
letter (文字・手紙)	letters { (文字・手紙) 文學
manner (方法)	manners { (方法) 行儀作法

pain (苦痛) pains (骨折)
quarter (四分の一) quarters (陣營)

【四】 常に複数の形の名詞がある。是等の名詞は單數
の形を有せないので常に複數に用ゐられる。

どんな名詞が常に複數に用ゐられるかと云ふに。

(い) ニツの部分より成る道具品物の名。例へば

scissors (鋏) tongs (火箸)
bellows (フイゴ) spectacles (眼鏡)
trousers (ツボン) drawers (股引)

で是等の名詞を一挺の鋏とか一個の火箸杯云ふ時には *a*
scissors とか *a tongs* 杯は理論上許せん事であるから
pair と云ふ字を用ゐて

a pair of scissors
a pair of tongs

杯云ふ。二個三個の時も

two pair(s) of tongs
three pair(s) of spectacles

杯云ふのである。

(ろ) 學術の名で *ics* で終るものは大抵常に複數の形
に用ゐらる。

physics (物理學) dynamics (力學)
statics (靜學) statistics (統計學)
politics (政治學) phonetics (聲音學)
ethics (倫理學)

例外:—

logic (論理學) music (音樂)

其他常に複數に用ゐられる名詞の重なるものは次の如きものである。

billiards (玉突戯)	lists (表)
riches (富)	arms (武器)
news (報知)	thanks (感謝)
works (工場)	means (手段)

作文練習題卅三

1. 富は翼を有す。
2. 富は心配 (cares) を持來たすものなり。
3. 多謝々々。
4. 此手段に依りて。
5. 何か他の手段を用ゐ (resort to) ざるべからず。
6. 私は二個の眼鏡を買ふた。
7. 彼れは三足の靴下 (stockings) を買ふた。
8. 私は靴を一足作らせねばならん。
9. 此本は十圓致しました。
(I gave 十圓 for 此本)
10. その箱は五十錢致しました。
11. 我々は家と食 (food) と共に (as well as) 衣服を要する。
12. 牧場に數匹の羊が居た。
13. 彼れは一匹の羊を連れて來た (brought)。
14. 魚は水中に棲む (live)。
15. 私は數匹の鹿を打つた (shot)

16. 熊は一尾の麩を捕へた。
17. 武器揃 (set)。
18. ツボン一つ。
19. あの人は聲音學に通じて居る (versed in)。
20. あの人は論理學を研究中である。
21. あの女は私の娘の音樂の教師です。
22. 君は音樂の (for) 耳があるか (have)。

第卅四課

格と性の練習

I don't know that man's name.

I am going to Mr. Ito's.

She struck the rock off the coast of Port Arthur.

【一】名詞に三ツの格がある。nominative, objective, possessive の三ツである。

nom.	obj.	poss.
{ A boy came.	I saw a boy.	boy's cap
{ I am a boy.		lady's hat
{ You are boys.		Ito's book

詰り形の違ふのは possessive case (所有格) 丈けてある。

【二】 所有格が所有を表はす事は 前に述べたが此格は所有以外に

目的 著作 發明家 動作を爲す人 杯を表す。

a girls' school (女學校).

即ち女子教育を目的とする學校.

Webster's Dictionary.

ウエブスター (著の) 字典.

uncle's death.

叔父の死 (叔父が死したるなり).

brother's success.

兄の成功 (兄が成功したるなり).

【三】 所有格は又 時間, 距離, 價格, 重量 等 を表すに用ゐらる。

to-day's paper 今日の新報.

yesterday's lesson 昨日の課業.

a dollar's worth 一弗の價格.

a ton's weight 一噸の重量.

【四】 所有格の名詞は後に house, store, shop 等を省略して其意味を 's で傳へる事がある。

I am going to Mr. Sato's. (=house)

佐藤氏の家へ行くところです。

I bought this book at Nakanishiya's.

中西屋 (の店) で此本を買った。

I met him at the barber's.

理髮店で彼れに會った。

【五】 所有格の次の用法は注意すべきである。

比較 { my father's friend 父の友は唯一人か又は誰某
と判然し居る場合.
a friend of my father's 父の友が數人ありて其
内の一人と云ふ時.

【六】 英語の名詞の性 (gender) は他の歐羅巴語の gender に比して左程重要視されて居らぬ。

これはどう云ふ譯かと云ふに名詞の代用をなす代名詞の用法 (即ち he を用ふるか she を用ふるか或は it を用ふるかと云ふ事) にのみ性を區別する必要があるからなのである。

gender に四種即ち男性, 女性, 共通性, 中性の四つがある。

男性とか男性の物即ち boy とか man とかて女性とは女性のもの即ち girl とか woman て共通性とは男女のいづれにも通ずるもの即ち parent (親) と云へば男性たる father にも通ずるし女性たる mother にも通ずる。其他 teacher, friend の如きものは共通性である。

中性とは男女性のいづれも有せぬもの即ち無性物 stone, book, rock, love, mercy の如きものは中性である。

【七】 中性の名詞のうちにも擬人法 (無生の物を人に擬へる法) に依り男女性に區別するものがある。

例へば強い, 大きな, 猛烈なものを表す名詞は男性として取扱ふ。

即ち

the sun (太陽)

death (死)

summer (夏)

winter (冬)

anger (怒)

等は男性として取扱れる。

之に反して優しい 美しい 善いものは女性として取扱ふ即ち。

the moon (月)

peace (平和)

mercy (慈悲)

spring (春)

英語で船と國(國家を意味する)とは通例女性として取扱はれ she と云ふ女性代名詞で受ける。

She struck a rock off the coast of Port Arthur.

其船は旅順沖で岩礁に乘上げた。

Russia lost a great part of her navy.

露國は其海軍の大部分を失ひたり。

作文練習題卅四

1. 日本は其海軍を擴張 (expand) せんとしつゝある。
2. 船は其乗組員 (crew) と共に沈んだ (went down).
3. 今朝私ノ父の一友人に會ひました。
4. 私はそこへ私の兄弟の一友人と共に参りました。
5. 今日の新聞を讀みましたか。
6. 昨日の新聞でそれを知りました (learned).
7. 昨日ノ取 (dictation).
8. 昨年ノ收入 (income).
9. 私は校長 (principal) ノ家へ参るところです。
10. 私はそれを丸屋で買ひました。

11. 彼れの父の死は彼を孤兒とせり (left him an orphan.)

12. あの人は女學校の先生です。

13. 七年戦争。

14. 露國は日本海ノ海戦で其海軍を大部分失ふた。

15. アノ人は佐藤君の所で會つた人だ。

第卅五課

代名詞の練習(一)

—self の練習

He killed **himself**.

I will go **myself**.

I cook **my own** food.

He was beside **himself** with
anger.

【一】 人が動作を自分自らに向つて發する事を表す爲め—self のついた代名詞を其目的に取る事がある。斯の如き動詞を反射動詞と云ふがこれは其表はす動作が主格に反射するから起つた名である。

單	複
myself (私自ら)	ourselves (我々自ら)
yourself (汝自ら)	yourselves (汝等自ら)
himself (彼自ら)	
herself (彼女自ら)	
itself (それ自ら)	themselves (彼等自ら) (それら自ら)

比 He killed a tiger. 他に及ぼす動作
 較 He killed himself. 自身に反射する動作

【二】 —self の附いた代名詞は斯く動作の反射するを表す外に他の名詞代名詞の意味を強くする爲めに用ゐられる事がある。例へば

I went myself.
 私は自ら往つた。

と云へば myself なるものは went の目的となるに非ずして單に I と云ふものゝ意味を強める爲めに用ゐられたのである。次の如きも名詞の意味を強めた一例である。

The King *himself* led the army.
 王様自身が軍を引率した。

【三】 反射代名詞には所有格がない即ち換言すれば himself's とか myself's 等と云ふ事が出来ない。デ此欠陥を補ふ爲めに own (自身の) と云ふ字を用ゐる。

單	複
my own	our own
your own	your own

his	} own	their own
her		
its		

例 I cook my own food.

私は自身で食物を調理する (自炊)。

【四】 反射代名詞のうち前置詞に先立たれて一の成句をなすものがある。

by oneself 獨りて。

beside oneself 狂氣になつて。

in itself それ丈では。

等である。

作文練習題 卅五

1. 彼れは縊死を遂げた (hang —self).
2. 彼れは喜んで狂氣の如くであつた。
3. 私は獨りて行きました。
4. アノ人は獨身生活だ。
5. 僕は獨りて (to myself) 此部屋を占領して居る。
6. 私は林中に (in the wood) 身を隠た (hid —self)
7. 彼れは白装束を着けり (dress —self in).
8. 我々は自ら助けざる可からず。
9. 彼れは自らそれをしたのだ。
10. 外ならず王様自身であつた。
11. 教師自らこんな (such) 過をする。
12. 私は自身で参りました。

13. 君は自身で行きますか. それとも (or) 私が代りに (for you) 参りませうか.
14. 君自身がそんな事を (so) 云ふ.
15. 僕自身もそれを知らなかつた.
16. そんなに度々 (so often) 學校を缺席する (absent oneself from) ものでない.
17. 彼女は出来るだけ盛装を凝した (as well as she could).
18. 天は自ら助くものを助く.

第 卅 六 課

代名詞の練習 (二) It の練習

It is wrong to steal.

Is it true that he is dead?

He was dead. I did not

know it.

It is fine to-day.

It is he that did it, not I.

【一】 it は語, 不定法, (動詞に to の附いたものを不定法と稱する). 句, 文等を代表する.

(a) 語を代表する場合

I bought a book. I gave it to my brother.

(b) 不定法を代表する場合

It is wrong to steal.

(c) 句を代表する場合

Is it true that he is dead?

(d) 文を代表する場合

He was dead. I did not know it.

【二】 it は漠然として天候時間距離等を表すに用ゐられる.

It is wet to-day. 今日は雨天です.

It will be fine to-morrow. 明日は好天氣でせう.

It was cold yesterday. 昨日は寒かつた.

It is ten o'clock now. 今十時です.

How far is it to Uyeno? 上野迄はどの位ありますか.

It is a mile from here. 爰から一哩です.

【三】 it は人稱, 數, 性等に關せずして名詞代名詞の意味を強める爲めに用ゐられる. 此時には通例 that が後に來るのである.

{ I did it.....と云ふよりも

{ It was I that did it.....と云ふ方意味強し

{ Tanaka is to blame.....と云ふよりも

{ It is Tanaka that is to blame. の方意味強し

【四】 It は特定の意味の代名詞だ one は不定の意味の代名詞である。

即ち it は (the + 名詞) に對し one は (a + 名詞) に對する。

- (a) { Do you want a pen?
Yes, I want one.
- (b) { Do you want the pen?
Yes, I want it.

【附記】 it が漠然として何物も代表せずに用ひられる事あり。

You will catch it. お目玉を喰ふぞ。

rough it. 不便な生活をする。

make an evening of it. 宴を開く。

作文練習題卅六

1. 遅くなると (if you are late) お目玉を喰ふぞ。
2. 君はナイフをお持ちですか。ハイ持つて居ります (one か it か)。
3. 君は例のナイフをお持ちですか。ハイ持つて居ります。
4. それを壊した (broke) のは木村です。
5. それを切つた (cut) のは私です。
6. 責む可きは (to blame) 貴様だ。
7. それをしたのは田中で僕ではない。
8. 昨日は風が多う (windy) 御座りました。
9. 雨が降つて居ます。

10. 山は雪だんべい。
11. 其時は大風が吹いて居た。
12. 暗く成つた。
13. 爰から十里です。
14. 君の家からどの位ありますか。
15. 僕の家からは五里です。
16. 何時ですか (what time.....)。
17. 六時です。
18. 六時半です (half past six)。
19. 六時十五分過ぎです (a quarter past 6)。
20. 五時十五分前です (a quarter to 5)。
21. それは冬であつた。
22. 儂陶敷いお天氣様ですね。
23. 結構なお天氣です。
24. 今日は暑いね (isn't it)。
25. モウ晚い。
26. モウ其處へ行くには餘り晚い。
27. マダ早い。
28. モウ寝る (to go to bed) 時だ。
29. あの人が辭職すると云ふ事だが本當か。
30. あの人が日本を去る (leave) と云ふ事だが事實か。
31. 虚言を吐く (to tell a lie) のは悪い。
32. それをするのは悪いか。

第卅七課

This, that, one, they, so 等の練習

This won't do.
 That will do.
 One can not be too careful in
 the choice of one's friends.
 They say that there is going
 to be a war.
 You smoke ; so do I.
 You don't smoke ; nor do I.

【一】 this, that の用法に付きては既に學びたるが次の用法は尙注意の價値あらん。

That won't do. = そりやあいかん (人の言を否定する時杯に用ふ)。

That will do. = それでよし。

That's right. = 旨い, 當ツた (推察の的中せる折杯に云ふ)。

That can't be true. = どうだか當にならん嘘らしいね。

That's certain. = 確かだよ。

That's it. = さうだ。

【二】 that の複數の those なる事は云ふまでもないが those に次の如き用法がある。

Those who = people who.

Those who were present = 出席した人々。

Those who believe in it = それを信ずる人々。

Those who do not understand English = 英語を解せぬ人々。

【三】 they が「世上の人々」即ち people の意で用ゐられる事がある。

They say that.....

= People say that.....

= It is said that.....

世間の風評に依れば.....

【四】 One が「人」と云ふ一般の意味で用ゐられる事がある。

One can not be too careful in the choice of one's friends.

人は其友を撰ぶに當りては宜しく念に念を入れ可きである。

此 one は we, you を以て換へる事が出来る。

One can not be too careful.....

We can not be too careful in the choice of our friends.

You can not be too careful in the choice of your friends.

【附記】 one who は he who 及び those who と同義に用ゐられる。

「成功せんと欲する人は」...を英譯すれば

He who would succeed.....

One who would succeed.....

Those who would succeed.....

those who は one who, he who の複數である。

【附記】 one が「者」と云ふ意味で名詞として用ゐられる。此時の one は複數の ones を有して居る。

little ones = children (小供)

【五】 「私もさうです」とか「彼女もさうです」とか云ふを英譯するに I am also...とか she is also...とか云ふのは拙にして宜しく [so + 動詞 + 代名詞 (或は名詞)] の形を用ふ可きである。

You are a boy ; so am I.

君は男兒で僕もさうだ。

You speak English ; so do I.

君は英語を話すか僕もやる。

He is clever ; so is his brother.

彼れは利口だ弟も利口だ。

「...もさうでない」即ち前述の so.....の打消の形は [nor + 動詞 + 代名詞 (又は名詞)] を以て表す (nor の代りに neither をも用ふ)。

You are not a girl. Nor am I.

君は女兒でない。僕もさうでない。

I do not smoke ; nor does my younger brother.

私は喫煙せぬ。私の弟もやらない。

You are not surprised at this ; neither, I am glad to say, was your wife.

君はこれ聞いて驚きはすまい。君の妻君も驚かなくてマアよかつた。

作文練習題卅七

- 1. ち子さん方は皆御丈夫ですか。
- 2. 彼女は美人 (pretty) だが彼女の妹も亦美人だ。
- 3. 成功せんと欲するものは忍耐 (persevere) せざる可からず。
- 4. 僕は誰れだか (who I am) 當てゝ (guess) 見給へ。田中君だらう。ソーダ當つた。
- 5. こりやアいかん。
- 6. それは確かですか。
- 7. 彼れは利口でないが彼れの弟もあまり (very) 利口でない。
- 8. 君は教師か僕もさうだ。
- 9. 君は酒を呑まぬか、僕も呑まぬ。
- 10. 君はアノ女を好まぬか、僕も嫌いだ。
- 11. 人はよくそんな間違 (blunder) を犯す (commit) ものだ。「よく...ものだ」は apt to を以て譯出せよ。
- 12. 人は兩親の命に服す可し (obey)。
- 13. 人は上長者 (superiors) の命に服す可し。
- 14. 君は學生か僕もさうだ。

15. 君は「英作文獨習書」を讀んで居るか、僕も讀んで居る。
16. 僕は彼の言 (him) を信ぜぬ。僕の妻も信ぜぬ。
17. 君のお父さんは英語を解せぬか僕の父も解せぬ。
18. 出席者は相當献金した (made some contribution).

第 卅 八 課

關係代名詞の練習

I love him **who** is very kind to me.

I like the book **which** is very interestig.

Man is the only animal **that** laughs.

He told me **what** he knew.

【一】 先立つところの名詞又は代名詞を代表すると同時に文章の中間にある前後の文の關係を保つ代名詞を Relative Pronoun と云ふ。

邦語には此 Relative Pronoun が存在して居らぬ爲め

其用法は殊に注意すべきである。例へば

I love him *who* is very kind to me.

と云ふ文に於て *who* は前にある *him* を代表して居る。「私は彼を愛する、彼其人は私に親切であるところの彼れで(邦語ではイクラ血迷ふたとてこんな事は云はぬが) *who* は *him* を代表すると同時に I love him なる部分と is very kind to me なる部分とを結合する事殆んど接續詞に似て居る。

I like this book *which* is very interesting.

に於ては *which* は *book* を代表すると同時に I like this book なる部分と is very interesting なる部分を結合して居る。

【二】 關係代名詞の前にあつて關係代名詞に依つて代表さる可き名詞或は代名詞を先行詞と稱する。前文中 *book* は *which* の先行詞であるが偕、

He told me *what* he knew.

彼れは知つて居るところのものを話した。

に於ては *what* (ところのもの) の先行詞がないが此代名詞に限り先行詞を其内に含んで居る。即ち *what* = *that* *which* なのである。

【附記】 *what* を(何)と云ふ意味に用ふるは疑問代名詞である。

What is your name?

君の名は何と云ふか。

【三】 關係代名詞は概ね次の如くである。

who *which* *that* *what*.

(a) *who* の用法。

who は人に限り用ゐらるゝもので次の通り格

の變化がある。(數. 性. の變化はない).

(nom.) (obj.) (poss.)
who (其人は) whom (其人を) whose (其人の)

文例

(nom.) I love those *who* are kind to me.
(obj.) She is the lady *whom* I met at my uncle's.
(poss.) A child *whose* parents are dead is called an orphan.

(b) *which* は物に而已用ゐられ次の如く變化する(數性の變化はない).

(nom) (obj) (poss)
which (それは) *which* (それを) of *which* (そのの)
(又は *whose*)

(nom.) I like the book *which* is interesting.
(obj.) This is the book *which* I bought at Maruya's.
(poss.) Here is a watch, the chain of *which* is broken.

(又は Here is a watch whose chain is broken.)

(c) *That* は人にも物にも用ふるが次の如き強き制限の場合には *who* 又は *which* を用ゐずして *that* を用ふるのである.

(い) 最上級及び *first, last, next* 等の後には *who* 又は *which* を用ゐずして *that* を用ふ.

He is the *wisest man that* ever lived.

あのやうな賢人は實に不出世である.

The *first man that* came was A.

最初に來たのは A.

The *next man that* came was B.

其次に來たのが B.

The last man that came was C.

最後に來たのが C.

(ろ) The only, the same, all の後には *that* を用ふるのである.

Man is *the only animal that* laughs.

笑ふ動物は人間而已である.

All that glitters is not gold.

光るもの必ずしも黄金に非ず.

This is *the same watch that* I lost yesterday.

これは昨日僕が紛失したのと同じの時計だ.

(は) 人と動物と二つが先行詞となる時には *that* を用ふるのである.

The lady and her *dog that* were just passing by,

通り掛りの貴婦人と其犬.

(に) 前々課に論じた意味を強める *it is* の後には *that* を用ふるのである.

It is I *that* broke it.

It was Tanaka *that* did it.

【四】 關係代名詞は動詞又は前置詞の目的となる時には省略しても差支ない.

This is the book (*that*) I want.

This is the man (*whom*) I met yesterday.

關係代名詞の前にある前置詞は關係代名詞を略する

時には動詞の後に來たる。

{ The house *in which* I live.の *which* を略
にする時には。

{ The house I live *in*と *in* を *live* の後に附す。

{ The book *of which* I am fond.は略して。

{ The book I am fond *of*なり。

【五】 *what* は「ところのもの」及び「ところの總て」の意味にして先行詞を其中に含んで居る。

{ He gave me *what* I wanted.

{ 彼れは予の欲する所のものを與へた。

{ He told me *what* he knew.

{ 彼れは彼れの知れる凡てを語れり。

what に次の如き慣用法がある。

What Japan is she owed much to *samurai*.

日本の今日あるは武士のお蔭だ。

He made me *what* I am.

彼の爲め私は私の今日あるを得たのだ。

He is *what* you call a 'haikara.'

彼れが所謂ハイカラだ。

作文練習題 卅八

1. 私の今日あるは亡妻に負ふところ多し。
2. 彼れは前代未聞の (that ever lived) の豪傑 (greatest man) だ。

3. 當時英語を教ふるは此校ありしのみ。
4. 彼は稼いで取る (earns) 總てを貯蓄 (save) する。
5. 最初船を去つたは其支那人であつた。
6. 最後に船を去つたは船長 (the Captain) であつた。
7. これは僕がお前に先日やつたのとシカモ同一の財布だ。
8. 私は英語を話す人が欲しい。
9. 私は A を養子にした (adopted) 其者の親と云ふものは死んで居ない (is dead).
10. 私は A を養子にした。其者は孤兒 (orphan) である。
11. この方は先日のお連さんですか (the gentleman with whom you came).
12. 私は私の財布を盗んだ (had stolen) ところの下女 (servant) を放逐した。
13. 私は英語に明るい (proficient in) B 君を雇ふた (engaged).
14. 彼女は頗る付きの (that I ever saw) 別嬪だ。
15. この鵝鳥は實に前代未聞の不思議の鵝鳥で毎日金の玉子を産んだ (laid).
16. これが先日神田で買ふた字引です。

第 卅 九 課

冠詞の練習 (I)

The *highest* mountain in Japan,
The moon goes round **the** *earth*.
Let us take a walk in **the** park.

【一】 初對面の名詞には不定冠詞を附し既に馴染の
名詞には定冠詞 the を附する事は第九課に於て既に學び
たるが。

(い) 既に前に言へるものを二度目に云ふ時には the
を附ける。

I saw a man. *The man* was Ito's father.

此場合に於て the man は代名詞の he に等しきもの
である。

(ろ) 前後の關係に依り一人一物と定まれる時には
the を附ける。

The highest mountain in Japan,

日本の最高山 (=富士).

The country in which we live,

我等の住む國 (=日本).

(は) 最上級の前には the を附ける事も既に學んだ
が最上級でなくとも次の如き名詞の前には the

を附ける。

the earth (地球)

the sky (空)

the world (世界)

the sea (海)

the sun (太陽)

the bible (聖書)

the moon (月)

the country (田舎)

比較 { *the* country (田舎)
比較 { a country (國)

比較 { *the* bible 聖書
比較 { a bible 聖書一冊

比較 { *on the* sea (海上)
比較 { *at* sea (航海中)
比較 { a rough sea (荒海)

比較 { *in the* sky 空中
比較 { a cloudy sky 曇天

【二】 「校長が赴任した」とか「知事が辭職した」とか
邦語の日常會話に云ふ時は其「校長」は他校の校長で
なくて自分の居る學校の校長であり其「知事」は他縣の知
事にあらずして自分の住する府縣の知事であると云ふ事
が暗々裏に了解されて居る。

英語で斯かる折には其名詞の前に the を附けるので
ある。何故となれば前後に別に特定する言葉はなくとも
或一人一物に限ると云ふ事が解るからである。
例へば

Shut *the* door. (戸を閉めよ)

と云へば其戸は外の戸に非ずして話者及聽者の居る
室の戸であると云ふが自然了解されて居る故に door の前
に the を附けた次第である。

作文練習題卅九

1. 窓を明けて (open) 呉れないか (will you).
2. 私は郵便局 (post-office) へ行くところです。
3. 私は停車場 (station) へ行くところです。
4. 私の両親 (parents) は田舎に住んで居ます。
5. 私は此夏を田舎で過します (spend).
6. 太陽は登りました (is up).
7. 月はマダ (yet) 上りません。
8. 魚は海中に (in the sea) 棲む。
9. 私は寝る前に (before I go to bed) 聖書を読む。
10. 彼れは世界中での一番丈の高い人だ。
11. 彼れは世界中での一番の富豪である。
12. 王様は或日狩にお出にケツた (went out hunting).
13. 私は田舎へ (into) 行かうと思つて居ます (I am going).
14. 校長がさう云ひました。
15. 知事が學校へ参りました。
16. 私は本とリボン (ribbon) を買ひまして本は弟にリボンは妹にやるのです。
17. 富士は日本の最高山なり。
18. 昨日買つた小説 (novel).

第四十課

冠詞の練習(二)

the の練習

The dog is a faithful animal.
 He forgot the judge in the man
 and father.
 I study mathematics in the
 morning.
 Japan is in the east of Asia.
 Cats can see in the dark.
 He struck me on the head.

【一】 the は單數普通名詞に附して其階級の全體を代表する事がある。之を代表の the と云ふ。

The dog is a faithful animal.

犬は忠實なる動物なり。

(The dog は犬の階級全體を云ふのである。)

階級全般を表すには the の外 a を用ゐるもよし又名詞を複數にして冠詞を附さない時は矢張り一般を表すのである。故に次の三文は悉く同意義である。

{ *The dog* is a faithful animal.
 = *A dog* is a faithful animal.
 = *Dogs* are faithful animals.

【附記】 man, woman に限り冠詞を附せずして一般の意義に用ふ。 Man is mortal (人は死すべきもの也)。

【二】 単数普通名詞の前に the を附すると或場合には其名詞を抽象的の意味に化する力がある。之を抽象の the と稱する。例へば *eyes* と云へば眼の事だが *the eye* と云へば眼の力即ち視力 = sight の意味となる。 *cars* と云へば單に車の意味であるが *the car* と云ふと聽感の意となる。故に

He forgot **the** judge in **the** man and father.

は「彼れは人たるの情と父たるの情に依り自分が裁判官であると云ふ資格を忘れた」の意味である。

今又次の例を見よ。

Your maid has something of **the** lady about her.

君の女中はドコか奥さんらしい所がある。

The bench 裁判官及其職。

The bar 辯護士及辯護士の職。

The pen is mightier than **the** sword.

文筆の力は劔戟の力よりも強し。

【三】 the は次の如き句中に用ゐらる。

(い) in the morning (朝に)

in the evening (夕に)

in the afternoon (午後に)

in the daytime (晝中に)

(但し at night 夜に)

(ろ) East (東) west (西) south (南) north (北) 及 left (左) right (右) には the を附す。

Japan is in the east of Asia.

日本は亞細亞の東に在り。

{ in the north 北部に。

比較 { to the north 北方に。

on the north 北側に。

(は) in the dark (暗い處), in the wet (雨中), in the air (空中), in the open air (戸外に), in the sun (日ナタ), in the shade (日蔭), 等の句には the を用ふ。

Cats can see in the dark.

猫は暗い處で見える。

Smoke rises in the air.

煙は空中に昇る。

To sleep in the open air.

露天に寝る。

(に) 英語にて「彼れは彼女の頭を打った」と云ふを He struck her head と云はないで He struck her *on the head* と云ふ癖あり。又

{ 彼れは私の耳を引ッ張ッた...を英譯すれば

He pulled my ear.....に非ずして

He pulled me by the ear.....なり

{ 彼は私の袖を引いた.....を英譯すれば

He pulled my sleeve.....に非ずして

He pulled me by the sleeve.....なり

又

彼れは私の顔を見た.....を英譯すれば
 He looked in my face に非ずして
 He looked me in the face.....なり

作文練習題四十

1. 彼れは彼女の頬(*check*)を平手で打つた(*slapped*).
2. 巡査は掏摸(*pick-pocket*)の肩を(*by the shoulder*)捉へた。
3. 彼れは雨天を歩いて居たのだ。
4. 日のあたる所へ(*into*)行くものでない。
5. 日蔭においで(*keep*).
6. 彼等は日のあたる所で泳いで居る(*swimming*).
7. 彼は暗い所で手探りをして進んだ(*groped his way*).
8. 富士山は西方に在り(山の存在には *rise* を用ふ).
9. 彼の人は朝大いに勉強(*work hard*)する。
10. そして夕方は早く(*early*)寝る。
11. 私は午後に在宅(*at home*)です。
12. 朝は學校に居ります.
13. 獅子は獸類の王(*the King of beasts*)と稱せられて居る。
14. 馬は有用な(*a useful*)動物である。
15. 人間は萬物の靈長(*lord of all creation*)である。
16. 女子は男子より弱い。

17. 彼れはどこか紳士らしい所がある。
18. 彼れはどこか英雄らしい所がある。

第 四 十 一 課

不定冠詞の練習

A horse is *a useful* animal.
 This is *an historical* fact.
 He rose to his position at *a*
 bound.
 He get 200 yen *a* month.
 Do you know *a* Mr. Kato?

【一】 不定冠詞の a は子音の前に, an は母音の前に用ゐられると云ふ事は既に學んだが。

(a) 母音でも子音的の音を出すもの即ちユ-と發音する u, eu. ヲと發する o (one に於けるが如し)の前には an でなくて a を用ゐるのである。

a useful animal
 (*an useful animal* に非ず)
a European
 (*an European* に非ず)

(b) 又發音しない h の前には a でなくて an が用ゐられる。

アン アワー (アノナロー)
an hour (一時間)
アン エイヤ
an heir (相續人)
アン イストリカル ファクト
an historical fact (歴史的事實)

【二】 a, an は one の意味で次の如き慣用句に用ゐられる。

in a word (一言にして盡せば)
a day or two (一日二日)
an hour or two (一二時間)
a month or two (一二ヶ月間)
at a blow (一撃の下に)
at a bound (一躍して)
at a time (一時に)

【三】 a, an は次の如き文中に於ては the same (同一) の意味である。

[of a ... = of the same.]

We are of a mind.
= we are of the same mind.
我等は同意見です。

We are of an age.
= we are of the same age.
我等は同年齢です。

Birds of a feather flock together.
同氣相求む、類は友を以て聚る。
Two of a trade do not agree.
商賣身敵さ

【四】 a, an は per (に付き、に) の意味に用ゐられる。

He gets two hundred yen a month.

あの人は一ヶ月に二百圓の収入がある。

Five yen a yard.

一ヤ-ルで五圓。

Twice a month.

一ヶ月に二度。

【五】 a が固有名詞の前に附くとし或る「又は」某の意味である。

a Mr. Kato.
= one Mr. Kato.
= a certain Mr. Kato.
加藤某氏

作文練習題四十一

1. 彼れは一躍して現在の地位 (the present position) に昇進した (rose).
2. 彼れは一ヶ月に二度コゝへ来る。
3. 彼れは一週間に二度歸宅 (return home) する。
4. 彼の人には月に五十圓取る。
5. 一時に二つの事 (two things) に従事する (attend to) 勿れ。
6. 一言以て云へば彼れは書蠹 (book worm) だ。
7. 汽車は一時間五哩の速力 (at the rate of) 走つて居た。
8. 一磅十錢。

9. 一ヤール十二錢。
 10. 彼れは年に一度東京へ来る。
 11. 彼れは年に三度 (three times) 田舎へ行く。
 12. 犬は有用な動物である。
 13. 一二時間で着する (arrive) でせう (主格には we を用ゐよ)。
 14. 一日二日間 (for) 滞留 (stay) するつもりです (expect)。
 15. 木村とか云ふ人が今朝 (this morning) 来ました。
 16. 彼等は殆んど (nearly) 同年輩です。
 17. それは同型 (size) です。
 18. 彼れは會社に取りて (to the firm) 有用なる一人物です。

第四十二課

命令文感嘆文の練習

Be careful.

Do it at once.

Come at once.

Let him come at once.

What a man you are!

What a pretty girl she is!

【一】 命令文とは命令及祈願を表す文なのである。

Be careful. 注意せよ。

Come at once. 直ちに來れ。

O God, help this poor creature.

ア、神よ此の哀れなものを助けよ。(祈願)

命令文は大抵第二人称であるが主格の you は普通略するのである(上例を見よ)。

【二】 第一人称第三人称に命令文がないでもないが極く少ない。第一人称の命令文とは話し手が自分自身に命令するので Let me see (ハテナ) 位のものであらう。

【三】 第三人称の命令文は Let him (her, them) + 動詞を以て表すのである。

Let him do it at once.

彼れに直ちにそれを爲さしめよ。

Let her come at once.

彼女を直ぐに來さしめよ。

第三人称の命令は第三人称に直接に命令するにあらで第二人称を通じて間接に命令するのであるから之を間接命令と稱してもよい。

【四】 感嘆を表す文を感嘆文と云ふて文章の終りには感嘆標 (!) と云ふものを附する。

How pretty she is!

(ナント美人なことねー)

What a pretty girl she is!

(同上意)

【附記】 how は形容詞に附し what は (形容詞+名詞) が後に來るのである。

- 【五】 Let him come at once. (間接命令).
 Let us go at once. スグ行かうぢやないか.
 (Let us は何々しやうぢやアないか).
 Let me go. 放してくれ (私に行かせよ).
 Let me see it. 見せてくれ (Let me see. は「ハテナ」)

以上の let の用法は比較して其意味の差異を學ぶ可きである。

作文練習題 四十二

1. 何んと美しい景色 (a fine view) ですね!
2. 何と早く (fast) 走ること!
3. 彼れに明日來させろ.
4. その畫 (picture) を見せて呉れ給へ.
5. 勉強 (diligent) せよ.
6. 正直 (honest) にせよ.
7. 何んと云ふ人だらう (ヒドイ人だ).
8. B君 (Mr. B) を訪ね (call on) てやらうぢやないか.
9. 公園に散歩 (take a walk) しやうぢやないか.
10. 競走をしやうぢやないか.
11. 静かに (quiet) せよ.
12. 直ちに行け.

第四十三課

疑問文に於ける Shall と Will

Where shall I sit?

Shall I open the window?

Shall I go, or will you go?

Will you go with me?

Will you open the door?

Shall you be at home tomorrow?

When shall he come?

【一】 Shall I? 第一人稱には will I? と云ふ形がない。これは自分で自分の意志を聞く事がないからである。一人稱は總て shall I? であるが shall I? は先方の意志、希望、考へ、等を問ふものである。

Where shall I sit?

どこへ座りませうか。

Shall I open the window?

窓を開けませうか。

此答は大抵命令文である (又は you may).

{(問) Where shall I sit?

{(答) You may sit here.

{(問) Shall I open the window?

{(答) Please do so.

又 you will 或は you shall を以て答ふる場合もある。

例へば

{When *shall* I learn the result?

イ ヲ其結果が解りませうか。

{*You will* learn it to-morrow.

明日は解りませう。

{*You shall* learn it to-morrow.

明日知らせてやらう。

【附記】 shall we には let us を以て答へる。

{Where *shall* we go?

どこへ行かうか。

{*Let us* go to see A.

A 君を訪問しやうぢやないか。

【二】 Will you? と shall you?

(a) will you? は先方の意志を問ふ形であるが他に又 依頼, 誘引等の用法がある。

(い) 先方の意志を問ふ場合。

Will you go, or shall I?

君が行きますか又僕が参りませうか。

Will you not tell any one?

誰にも話さないか (約束を求める時)。

Will you go at all hazards!

どんな事があつても行く氣か。

(ろ) 依頼

Will you please explain this passage?

どうぞ此處を説明して下さいませんか。

will you の代りに would you.....と云へば猶一層丁寧な形となる。 please の代りに kindly 杯を用ゐてよい。

Would you kindly explain this passage for me?

邦語では「何々して呉れないか」と打消の形を以て依頼するが英語では決して will you not と not を附する事がないからそれをよく注意す可きである。

(は) 誘引

Will you go there with me?

僕と一緒にいかないか。

此場合には 打消の省略形即ち won't you を用ゐて Won't you go with me? として差支ない。

【附記】 will you を以て問ひたる時は通例 I will 又は I won't (=I will not) を以て答ふるのである。

{(問) Will you open the window?

{(答) Yes, I will.

{(問) Will you go with me?

{(答) Yes, I will.

{(問) Will you not tell any one?

{(答) No, I won't.

(b) **Shall you?** shall you は I shall に相當するので先方の必要 義務 期待 能力 等を尋ねるのである。

Shall you need the money soon?

君は直きに其金が必要ですか。

Shall you be at home to-morrow?

君は明日は在宅ですか。

Shall you be able to come to-morrow?

明日も出が出来ますか。

shall you を以て問ふた時は通例 I shall を以て答ふるのである。

{(問) Shall you be at home to-morrow?

{(答) No, I shall go to school to-morrow.

{(問) Shall you be able to come?

{(答) Yes, I shall be able to do so.

{(問) Shall you need this money soon?

{(答) No, I shall not need it for some time yet.

【附記】 will not を省縮すると won't であるが如く shall not を縮めると shan't である。

{ Shall you go to school to-morrow?

{ No, I shan't.

【三】 Will he? と shall he?

(a) **Will he?** は普通の未來の形である。

Will he come? 彼れは来るだらうか。

Yes, he will. ハイ来るでせう。

斯の如く will he? の答は通例 he will である。

(b) shall he は第三人稱に就きての先方の望み意志 等を尋ねるのであつて其答は he shall 又は間接命令の Let him を用ゐるのである。

{ When shall he come? 何時彼れに來させませうか。

{ Let him come to-morrow. 明日來させろ。

{ When shall he have your answer? 何時彼は御返事を頂戴出来ませうか。

{ He shall have it now. 今直ぐやらう。

次を比較す可し。

{ Will he come? 彼れは来るでせうか。

{ Shall he come? 彼れに來させませうか。

{ When will he go to school? 何時學校へ行くやうになりますか。

{ When shall he go to school? 何時學校へおやりですか。

英作文練習題四十三

1. 私はお宅へ伺ひませうか。
2. 何時に (what time) 伺ひませうか。
3. 何の話 (story) を話し (tell) ませうか。
4. 明日此本を持つて参りませうか。
5. 御手紙 (your letter) をどこへ持つて参りませうか。郵便局へ持つて行け。
6. 何時に向うへ (there) 着くてせうか。

7. 六時に着くてせう。
8. 明日は何時に彼れをお宅へ伺はせませうか、朝来るやうにして下さい。
9. 朝はお在宅ですか。ハイ朝は家に居りますが、午後には出掛けます。
10. A君も一緒に連れて参りませうか。
11. 水を一杯上げませうか。
12. 僕と共に公園へ行きませんか、ウム。行かう。
13. どこへ行かう、公園へ行かうぢやないか。
14. 何をして遊ぼうか、隠れん坊でもして遊ぼうぢやないか。
15. 明日學校で (at school) 此本が要りませうか、ハイ要るでせう。
16. ア、何うしたらよからうか。
17. 或紳士が御用がある (want to speak with one) さうですが通しませうか。
18. 此人にアナタのお娘子をおやりになりますか。(shall を用ゐよ)。
19. どごへ彼等にお荷物 (your baggage) を運ばさせませうか。
20. 途中 (on the way) 本屋 (bookseller's) の前を通り (pass) ますか。ハイ通ります。
21. 通ッたら若しや私の注文した (ordered) 本が来たか何うだか (if) 尋ねて (ask) 呉れませんか。畏りました。
22. 休みの間は (during the holidays) 何處においてますか。大磯に居ります。

23. 明日 A 君にお會ひてせうか。ハイ會ふと思ひます。
24. 僕と一緒に日光へ行かないか。ウム行きませう。
25. 君は今行くがそれとも後にするか (afterward)。
26. 散歩に来ないか。イヤダ。
27. ドーゾ神田へ行く途 (the way) を教へて (tell) 呉れないか。
28. それでは今月末には御返却 (pay) が出来ますか。
29. 僕等と一緒に鬼ごっこをして遊ばないか。

第四十四課

助動詞の練習

I shall be able to pay you then.

I was able to do so.

I had to do so against my will.

You will not have to go.

You will have to go there this afternoon.

【一】 can には could と云ふ過去はあるが未來の形がない爲め。又 must には未來の形も過去の形もない爲め次の如き句を以てそれを補ふのである。

can の變化

過去 was able = could
 現在 is able = can

未來 $\left. \begin{array}{l} \text{shall} \\ \text{will} \end{array} \right\} \text{be able}$
 (=出来るてせう)

(a) $\left\{ \begin{array}{l} \text{I shall be able} \\ \text{You will be able} \\ \text{He (she) will be} \\ \text{able} \end{array} \right.$
 (b) $\left\{ \begin{array}{l} \text{Shall I be able...?} \\ \text{Shall you be able?} \\ \text{Will he be able..?} \end{array} \right.$

must の變化

過去 had to (=しなければならなかつた)
 現在 have to = must

未來 $\left. \begin{array}{l} \text{shall} \\ \text{will} \end{array} \right\} \text{have to}$
 (=しなければなら
 ないだらう)

must の反對即ち (しなくともよい. するに及ばぬ) は need not であるといふ事は前に述べたが其變化は次の通りである。

had not to = するに及ばなかつた.
 have not to = need not

$\left. \begin{array}{l} \text{shall} \\ \text{will} \end{array} \right\} \text{not have to}$
 (=するに及ばぬてせう)

$\left\{ \begin{array}{l} \text{I shall not have to} \\ \text{You will not have to} \\ \text{He will have to} \end{array} \right.$

【二】 must have been (done) 又は can (not) have been (done) と云ふ形もあるが是れは must や can の第二の意

義に用ひらるゝので前述の had to や able の形が必要となる譯である。

〔例〕

He must have done it.

彼れがそれをしたに違ひない。

He can not have done it.

彼れがそれをした筈がない。

即ち斯の如く must have, can have の形は第一の意味たる必要能力を表はさない。

作文練習題四十四

1. 私は今夜はそこへ行くには及ばない。
2. 君も行くには及びますまい。
3. 彼れは直ちに行くには及ばない。
4. 彼れは今年末にそれを拂ふ事が出来るだらうか。
5. 若し落第すると私は歸國しなければならぬ。
6. 君は若し失敗すると退學 (leave school) しなければならぬてせう。
7. 君は直ちに英語を能く話せるやうになります。
8. 私は明日は學校へ行かなければならぬ。
9. 何時字引なして英語が讀めるやうになるだらうか。
10. 來年は此本が讀めるやうになりませうか。

第四十五課

Subjunctive Present の練習

I shall not go, if it rain(s).
 If I were you, I would do it.
 If I were richer, I should not have to work so hard.

【一】 動詞の事實を表はす形を直説法 (Indicative mood) と稱し想像を表はす形を可成法 (Subjunctive mood) と稱するのである。

事實 As I *am* not rich, I *have* to work hard (直説法).
想像 If I *were* richer, I *should* not have to work so hard (可成法).

本課に於ては此想像を表す形即ち Subjunctive Mood (可成法)に付いて重に研究するのである。

【二】 想像を表はす形に二つあつて一を附屬句と稱し一を條件句と稱するのである。

(附 屬)	(條 件)
If I were you,	I should do it.
If I were richer,	I should not have to work so hard.

前者を何故附屬句と云ふかと云ふに之は獨立して用ゐられない必ず他の主文に附屬するから此稱があるのである。

【三】 Subjunctive Mood には直説法と等しく過去, 過去完了, 現在(未來)等あるがそれが各々直説法とは其用法を異にして居る。本課に於ては重に Subjunctive Present に付いて研究し Subjunctive Past 及 Past Perfect は次課に譲る事とする。

【四】 Subjunctive Present は疑・不確實・を表す形で通例 if, provided, unless 等にて始まる句中に用ゐらるゝもので多くの場合未來に關する疑及不確事を表すのである。

【五】 Subjunctive Present は三人稱單數現在の場合に於ても Indicative の如く動詞の語尾に s を附する事をしてない。又 to be の動詞に限り直説法とは大いに其形を異にするのである。

a.	If I come	
	If you come	
	If he <i>come</i> (s)	
	If it <i>rain</i> (s)	
	<i>sub.</i>	<i>ind.</i>
b.	If I <i>be</i>	(I am)
	If you <i>be</i>	(you are)
	If he <i>be</i>	(he is)

然れども Subjunctive Present は近代の英語から段々死滅して行くのである, そして indicative present を以て代へるやうな趨勢がある故に近代の英語にては

If he come...の代りに.....if he *comes* とも云ひ
 If it rain.....の代りに.....if it *rains* とも云ひ
 If I be.....の代りに.....if I *am* とも云ひ
 If you be.....の代りに.....if you *are* とも云ひ
 If he beの代りに.....if he *is* とも云ふ。

【附記】 *subjunctive present* は祈願を表はす感嘆文に用ゐられる事がある。

God bless you! = May God bless you!

神爾に祝福せんことを(祈る)。

Heaven help him! = *I pray that Heaven may help him.*

神彼れを助けん事を(祈る)。

作文練習題四十五

1. 若しアノ人が行くなら私も行きます。
2. 若し明朝御來車下さらば私は在宅して居ります。
3. 若し御會ひでしたら、よろしく願ひます。
4. 若しそれが事實であつたらば彼の家族は何うなるだらう。
5. 本當なら彼れが僕に何とか云ふ筈だ。
6. 見る價值があるならば行つて見やう。
7. 其人が餘り若くないなら使つてやらう。
8. 僕は勉強しなければ落第する。

第四十六課

Subjunctive Past の練習

If I were you, I **would** not do it.

If I were richer, I **should** not have to work so hard.

If you were I, what **would** you do?

If he were here, what **would** he say?

I wish he were here.

I wish I could go.

She looks as if she were sick.

【一】 Subjunctive Past は現在の事實に反せる想像。換言すれば現在の事實は既に甲であるのに若し乙でありしならばと云ふ想像を表はすのである。

If I were you, I would not do it.

(僕と君とは別人だが) 若し僕が君なりせばそんな事はせぬ。

If I were richer, I should not have to work so hard.

(僕は貧乏だから一生懸命に稼ぐが)若しも金があつたらこんなに稼ぐには及ばぬだらう。

subjunctive past は其形こそ past であれ。表はす所は現在の事實に反せる想像である、即ち其述る所は現在に關するのである。

If I *were* = I am *not*

If I *had* = I have *not*

If I *could* = I can *not*

If I *did* = I do *not*

【二】 Subjunctive past は to be の動詞を除くの外は直説法の過去の形と同一である。而して subjunctive past には人稱、數の別なく were を用ふるのである。

- (a) { If I *were*.....
If you *were*.....
If he *were*.....
- (b) { If I *did*.....
If you *did*.....
If he *did*.....

【三】 Subjunctive past は if, suppose, as if (恰も)等て始まる句に用ゐられ should, would, might, must, could を含む條件法 (Conditional form) に伴はれるのである。

If I were you, I *would* not do it.

Suppose you were I, what *would* you do?

She looks *as if* she were sick.

If I were rich, I *should* not have to work so hard.

【四】 Subjunctive に於ける should (shall の過去) would (will の過去) 用法は shall, will の用法と同一である。

未來(無意志)	意志
I should (I shall)	I would (I will)
You would (you will)	You would (you will)
He would (he will)	He would (he will)

文例

- { If I were you, I *would* not do it. (意志)
{ If I were rich, I *should* not have to work so hard. (必要)

【五】 I wish の後に subjunctive past を用ふれば現在の事實に反せる叶はぬ願望を表はすもので「云々でありたいがさうでないのが残念」の如き意味を有するのである。

- { I wish I were a boy. 男兒であればよかつたが
(女に生れたが残念)
= I am not a boy. I am sorry I am a girl.
{ I wish I *could* go. 行ければよいのだが(行けぬ
が遺憾)
= I am sorry I can not go.
{ I wish I had wings. 翼があればよいのだが(翼
がないからいかぬ)
= I am sorry I have not wings.

尙次を比較して其意味の差を知り給へ。

- { I wish I *could* go. = 行けぬが残念。
{ I wish to go. = 行き度いと思ふ。

作文練習題四十六

1. 僕が君であつたらよいのだが君でないのが残念だ。
2. 資本 (some means) があればよいのだが。
3. 女 (girl) であればよいのだが。
4. 洋行 (go abroad) が出来ればよいのだが。
5. 洋行がしたい。
6. 若し僕が君だつたら早速 (at once) 行くのだが。
7. あの人が英語を知つて居たら私は使つて (employ) やるのだが。
8. 君が僕だつたら何うするね。
9. さうさね (well,) 若し僕が君だつたら早速彼女と結婚 (marry) するよ。
10. お父さんが爰にいたら嘸景色 (the view) を賞する (enjoy) だらう。
11. 私は金があつたらそれを買ふのだが。
12. 僕がもう少し若いと一緒にお附合をする (go with) のたが。
13. お前がもう少し年を取つて居る (older) と一緒に連れて行つて (take) やるのだが。
14. 私が鳥であつたらお前の所へ飛んで (fly) 行くのだが。
15. 假りに君が彼れの如く利口 (clever) だとして (suppose) 君はそれをやつて見る (try) か。
16. 此子は大人染みた事を云ふ。(as if を用ゐよ)。
17. お助けが出来ればよいのだが。

- e 18. 若し出来れば洋行がしたいのだが。
- o 19. 若ししやうと思へば洋行が出来るとのだが。
- o 20. 爰にその人が居ればよいのだが。居たら何と云ふだらう。

第四十七課

Subjunctive Past Perfect の練習

If I had been you, I would have gone at once.
Had I been a man, I could have gone to the war.
I wish I had learned English at school.

【一】前課に於て subjunctive past が現在の事實の裏の想像を述べることを研究したが。

Subjunctive Past Perfect は過去の事實に反對せる想像を表はすのである。(即ち subjunctive past perfect は indicative の past に相當するものである)。

{ If I were you = I am not you.

{ If I had been you = I was not you.

- { If I had the means = I have not the means.
 { If I *had had* the means = I *had not* the means.
 { If I knew English = I do not know English.
 { If I *had known* English = I *did not* know English.

【二】 Subjunctive Past Perfect は should have, would have, might have, could have (+ 過去分詞) の条件法に依りて従はれるのである。

- { If I *had had* the money, I *would have bought* it.
 若し金があつたら買つたのだつたが。(過去の想像).
 { If I *had* the money, I *would buy* it.
 若し金があれば買ふのだが。(現在の想像).
 { If I had known English, I *might have secured* the position.
 英語を知つて居つたら其地位を得られたかも知れない。(過去の想像).
 { If I knew English, I *might secure* the position.
 英語を知つて居れば其地位を得られるのだが。(現在の想像).

【附記】 Had を主格の前に置きて if を略する事あり。

【三】 I wish の後に subjunctive past perfect を用ふれば過去に関する愚痴を述ぶるものなり。

I wish I *had gone* there.

行けばよかつた。

I wish I *had asked* him for it. If I had asked him, he might have given it to me.

それをねだればよかつた。ねだつたら呉れたかも知

れない。

次を比較せよ。

I wish I knew English.

英語を知つて居ればよいのだが。

I wish I had learned English at school.

学校で英語を學んで置けばよかつたが。

作文練習題四十七

1. アノ時あの人に聞いて (ask) 置けばよかつたが。
2. 聞いたら説明して呉れたらうが。
3. それを知つて居たら こんな事は (so) しなかつたのだが。
4. 若しアノ時病氣でなかつたら成功したかも知れぬ (might have).
5. 彼の人演説は聞きたかつた。
6. アノ時に英語を習つて置けばよかつた。
7. アノ時に本を買つて置けばよかつた。
8. 若し私があの時モ少し年をとつて居たなら其位置が得 (secure) されたのだらうが。
9. 若し當時アノ人がモ少し年を取つて居たなら私は使つてやつたのだつたが。
10. 呉れると云ふたらやつたのだつたが。

第四十八課

Subjunctive Future の練習

If it rains, I will not go.

If it **should** rain, I **would not** go.

Should you fail by any chance,
what **would** you do?

If I **were** to tell it all, time
would fail.

【一】 Subjunctive Future は subjunctive present と同じ様に現在及未來に關する想像を表すものである。

Subjunctive Future は 人稱數に關せず助動詞の should を附するのである。又時に依り主格の意志を表はす時には would を用ふるが此場合は前者の如く多くない。

未 來 意 志

if I should go.....	if I would go.....
if you should go.....	if you would go.....
if he, she, it should go.....	if he would go.....

【二】 Subjunctive present と should を含む subjunctive future とには次の相違がある。

此兩者は同様不確なる事疑はしき事等を表すのであるが should を加ふれば一層其不確, 疑はしき事を強めるの

で詰り邦語の「若し萬一.....すれば」の萬一の考が加はるのである。之を副詞の should 或は萬一の should 杯と教へる人があるがさう覺えて置くのも一法である。

If it rains, I will not start.

雨がふれば出發しません。

If it *should* rain, I *would* not start.

若し萬一にも雨が降るなら私は出發しません。

If I fail this year, I will try again next year.

若し今年落第すれば來年又やる。

If you *should* fail, *would* you try again?

若し萬一君が落第したら又やるか。

【附記】 should を主格の前に置きて if を略する事 前述の had を主格の前に置きて if を略すると同じ用法である。

Should you fail this year, would you try again next year?

= If you *should* fail this year,.....

【三】 將來に於ける純粹の想像を表はすには were to の形を用ふ。

were to は邦語の「假りに.....とすれば」に當る。

實らしからざる事(萬一)

假定(假りに.....とすれば)

If I **should** go.....

If I *were to* go.....

If you **should** go.....

If you *were to* go.....

If he **should** go.....

If he *were to* go.....

作文練習題四十八

1. 若し萬一雨天の節は参りません。
2. 萬一成功したら兩親はどんなに喜ぶだらう。
3. 假りに太陽が西から (in the west) 出るとしても。
4. 萬一失敗したら何と父に言譯 (say) しやうか。
5. 萬一お會ひなさらばよろしく云つて下さい。
6. 萬一雨天でも参ります。
7. 萬一こちらの方へ御出の時は御立寄下さい。
8. 萬一遣損ふたら他の手段 (means) を用ゐなければならぬ。
9. 萬一病氣になつたら何うしやうか。
10. 萬一船がヒツクリ返つたら君は何うするか。

第四十九課

Sequence of Tense の練習

I said I would go.
 He asked me if I would go.
 I did not know that he had it.
 I knew that it was Taro.

【一】 邦語にては「彼れは知らぬと云ふた」と云へば云ふたは過去なれど知らぬは現在なり。

されど英語にては一方の動詞が過去なる時は従つて他の動詞も過去にせなければいかんのである。

即ち He said he did not know.

と云はねばならぬ。

英語と邦語とは此點に於て著しく違つて居るので従つて本邦學生が此點に於て mistake をする事が屢々見受けられる、即ち前述の「知らぬと云ふた」を邦文のテンス通りに

He said he does not know.

と云ふやうに云ひ、又「私は失敗するだらうと思つて居た」を譯して

I thought I shall fail.

と云ふやうな間違は入學試験杯で屢々犯すのを見るさうである。此 I thought I shall fail の如きも前の thought が過去であるから shall の過去即ち should を用ひて I thought I should fail とす可きなのである。

次に邦語との差違の一般を示すと

出來ますと云ふた.....He said he could do it.
 君は及第するだらうと思ふた
I thought you would pass.
 見るや否や逃去つた.....He ran off as soon as
 he saw me.

【二】 次の should, would の用法に注意せよ。

未	來	意	志
I thought I should fail		I said I would go.	
I thought you would succeed.		I said you should go with me.	
I thought he would succeed.		I said he should go with me.	

尤も than 又は as のやうな比較を表す接續詞にて結合すると前に過去を用ゐたからとて必ずしも後にも過去を用ゐざる可からずと云ふ事はない。次の例を玩味し給へ。

I studied harder at your age than you are studying now.

君の歳に僕は君が今やッて居るよりは遙かに勉強家であつた。

作文練習題四十九

1. 若しや私が其人を知ッて居るか (if) と 尋ねた (asked me).
2. 僕は成功するだらうと思ッて居た (善き事を思ふには thought と云ふより hoped の方がいゝ).
3. 君も (too) 成功するだらうと思ッて居た.
4. アノ男は死ぬだらうと思ッて居た.
5. 彼れは明年は洋行をするつもりだ (going to) と云ふた.
6. 何日 出發 (start) するとも云はなかつた.
7. 彼れは 古い字書 (his old dictionary) を 賣り度い (wish to sell) と私に 云ふた (told の方 said より宜し).
8. 君が東京に居るとは思はなかつた.
9. 彼れが其處に居るとは思はなかつた.
10. 彼れは センチネリー字典 を 買ッた と僕に話した.

(此場合の 買ッた は過去完了即ち had bought なるを要す。何となればそれを買ひたるは僕に話した前の出来事なればなり).

11. 彼れは 舊の家 (his old house) を賣ッて了ッたと僕に話した.
12. 私は時計を失ふたと云ふた.
13. 彼れはそれを見出したといふた.
14. 彼は若しや木村が私の家に 滯留して居る (staying with) かと尋ねた.
15. 何用か (what he wanted) と尋ねた.
16. 彼れは 其紳士が有名なる博士 (the famous doctor) であるとは知らなかつた.
17. 彼れが 今度の校長 (the new principal) だとは知らなかつた.
18. 彼女は そんな人 (him でよし such a man 杯と云はぬを可とす) は知らぬと云ふた.

第五十課

Get (have) something done の練習

I want to **get** my hair cut.
 I will **have** (get) the letter translated into German.
 I will **get** some one to carry it to the station.

【一】 邦語にては「髪刈りに行く」「寫眞を撮らうと思ふ」云ふが英語にては一層理詰で「髪を刈る」と云ふたとて誰れが自分で自分の髪を刈る人もなければ自分で自分の寫眞をとるものもなく髪は床屋に刈らせるのだし寫眞は寫眞師に撮させるのであるから英語では

- { 寫眞を取る.....を
- { to take my photograph と云はずして
- { to get (have) my photograph taken.....と云ひ
- { 髪を刈る.....は
- { to cut my hair.....に非ずして
- { to have (get) my hair cut.....と云ふのである

此 [have (又は get)+何々+過去分詞] の公式にて英譯す可きものは概ね次の如き邦文である

- 邦語 英語
- 髪を刈る.....get (have) one's hair cut.
 (但し鬚を剃るは單に get shaved にして beard や face 杯を用ゐない)
- 靴を作らせる.....get (have) a pair of shoes made.
- 家を建てる.....get (have) a house built.
- 時計を直させる.....get (have) a watch mended.
- 肖像を畫かせる.....get (have) one's portrait painted.

【二】 have (get) something done には前述の如く何々させる と云ふ意味の外に尙何々して貰ふと云ふ意味にも用ゐられるのである。

例へば

I will have my stockings mended by my mother.
 おツ母様に此靴下を繕ふて貰はふ。
 I will have the letter translated into English by him.

彼の人に此手紙を英語に譯して貰ひませう。

【三】 此 [have (get)+物+done] の形は [have (get)+人+to do+物] の形に變ずる事が出来るのである。

- { I will have the letter translated into English by him.....を轉じて
- { I will have him to translate this letter into English.....と爲すを得べし
- { I will have it carried to the station.
- { =I will get some one to carry it to the station.

作文練習題五十

1. 私は靴を一足作らせなければならぬ。
2. 私は古い靴を修繕させなければならぬ。
3. 君の靴下に穴があいて居る (have a hole とす可し) 君の妹に直して貰ひ給へ。
4. 髪を刈ッて下さい (I want).
5. 深く刈らずに周囲だけ鋏んで下さい (trimmed を用ゐよ。深く刈らずに周囲だけは譯出するに及ばず)。
6. 君は時計を直させたか。
7. 私は自分で行けないから誰れかに代りに (for me) 行ッて貰はふ。
8. 私はそれを兄に書いて貰ひました。
9. 誰れかに停車場まで荷物 (the baggage) を運ばさして下さい。
10. 私は洋服を一揃 (a suit of foreign clothes) 作らした。
11. 私は此洋服 (this suit で宜し) を倫敦に居た時作らせた。
12. 私は机を一脚作らせた。

第五十一課

前置詞の練習 (I).

at と by.

See the hen run at the cat.Boys are out at play.He went out at the back door.A man passed by me.He was killed by a tiger.

at の時及場所の用法は既に述べた所である即 at は短い時、狭い場所に用ゐると云ふ事は尚諸君の記憶するところであらう。此外の用法は

【一】 at は向ッて、狙ッて(方向、襲撃)の意味がある。

See the hen run at the cat.

猫を狙ッて(猫に向ッて)走ッて行く牝鶏を見よ。

He fired at the tiger.

彼は虎を狙ッて發砲した。

故に見る (look) に類した字には悉く此方向を表はす at を附し又發砲する (fire) に似た字には襲撃の at を附する。

He looked up at me. 彼れは私を見上げた(但し顔を見るには in.—He looked in my face).

look at に類するものは

gaze at	熟々と見る
gape at	口を開いて見る
blink at	寝ぼけながら見る
wink at	見て見ぬふりをする
stare at	じろじろ見る
smile at	フ、ンと笑ふ(輕蔑)
laugh at	嘲笑す
point at	指して笑ふ
bark at	に向ッて吠える
fire at	に向ッて發砲する
run at	に向ッて走る
kick at	を蹴る
strike at	を打たんとする

【二】 at は又何々をして居るの意あり。

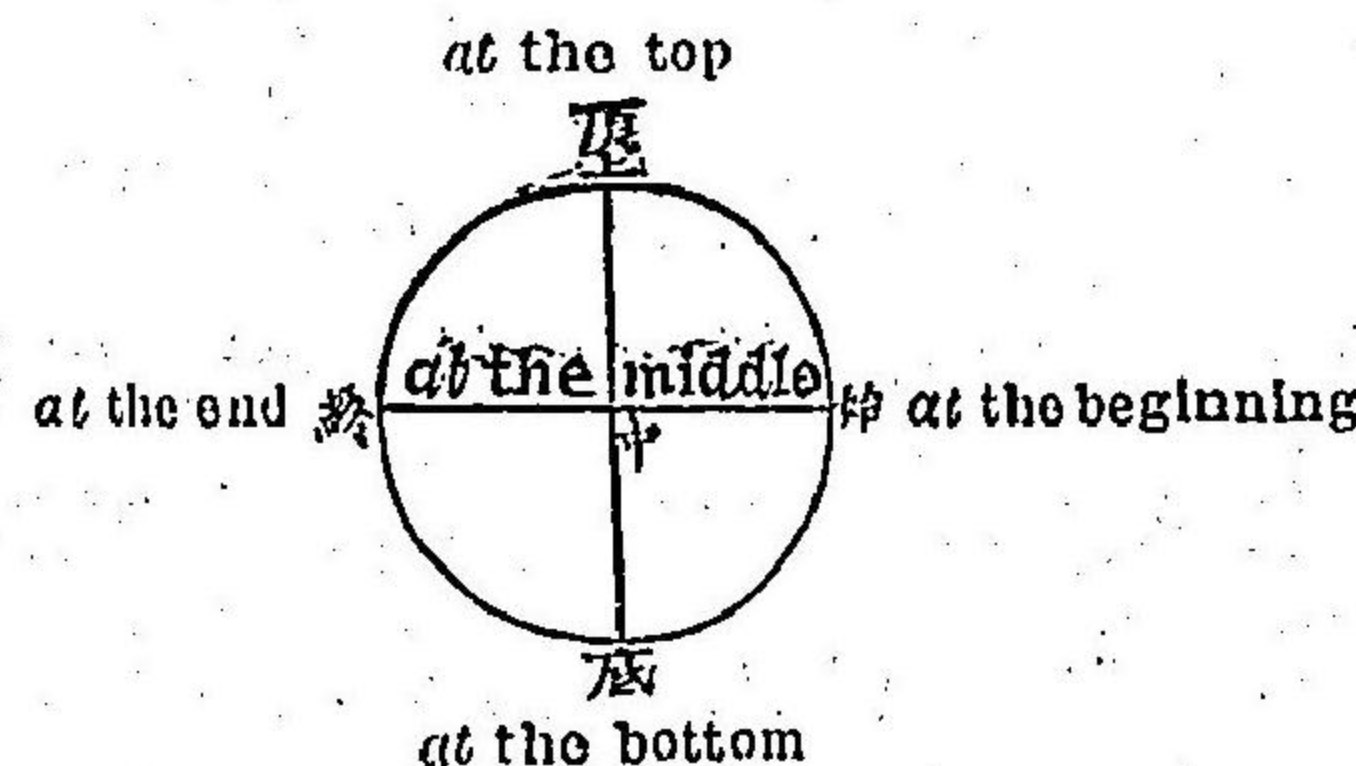
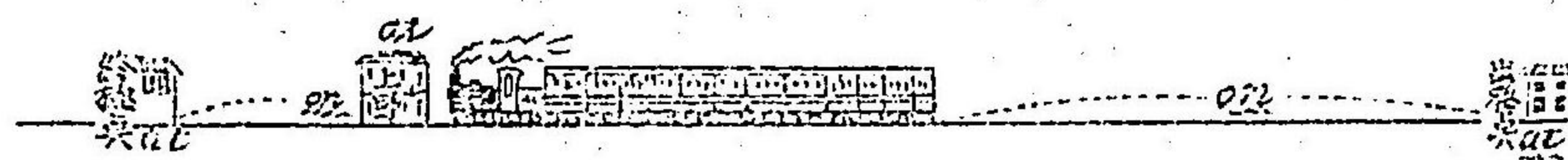
- at play = 遊戯をして居る (=playing)
- at work = 仕事をして居る (=working)
- at table = 食事をして居る (=dining)
- at war = 戦争をして居る (=making war)
- at school = 授業をして居る (=teaching)

以上の何々をして居るの意味より轉じて其反對の休止(何もしないで居る事)を表はすやうになつて。

比較	仕事	{ at work
		{ at school
靜止	{	at rest 休んで居る
		at leisure 閑て居る
		at home 在宅をして居る

比 { at war 戰爭中
 較 { at peace 平和

【三】 at は總て點を表はすものである例へば鐵道線路と云ふ長い線がある。其線の上に停車場と云ふ點が諸處にある。其停車場は at である。(但し線路は on)



上圖の如く始、終、中間、頂上、底等は一つの點であるから at を以て表はすのである。

- { at (又は on) the top (summit)
- { at the bottom
- { at (又は in) the middle
- { at the beginning
- { at the end

文例:—

- { He ran at the top of his speed. 全速力で走つた。
- { There is a shrine at the summit of the mountain. 山の頂上に神社がある。
- { There is woman at the bottom of every scandal. 騒動の本には婦人あり。

at the beginning of this month 今月初め

at the middle of this month 今月中旬

at the end of this month 今月下旬

at は又出入の點を表はす。

I came in *at* the front door.

私は表口から入つて來た。

He went out *at* the back door.

彼れは裏口から出て行つた。

【四】 *By* は傍(ソバ)の意あり。

He sat *by* me 彼れは予の傍に坐したり。

A cherry tree *by* the well 井の端の櫻。

Let me *by* 通して下さい。

參照 Let me out. 出して下さい。

Let me in. 入れて下さい。

The house stands *by* the side of the river.

家は川の端に在り。

{ *by* the side (傍).

{ *on* the side (側).

He passed *by* me.

彼れは私の傍を通つた。

【五】 *By* は又 によりて の意味で動作を爲す人を表はす。

America was discovered *by* Columbus.

亞米利加はコロンブスに依り發見せられた(即ち *Columbus* が發見した)。

The bridge was carried away *by* the flood.

橋は洪水に依りて流された。(洪水が流したるなり)。

動作を爲す人は *by* を以て表はし 道具 は *with* (を持つて)を以て表はす。

{ He was killed *by* his enemy 敵に殺された

{ He was killed *with* a sword 刀で殺された

【六】 *By* は又 交通機關 を表はす事あり。

by train 汽車で

by steamer 汽船で

by rikisha 人力車で

by car 電車で

by (on) bicycle 自轉車で

但し { *on* foot 徒歩で

{ *on* horseback 馬で

作文練習題 五十一

1. アノ人は朝は 大抵 (generally) 在宅して居ます。
2. 人力車で來ましたか。イ、エ徒歩で參りました。
3. 汽車で 廣島まで (as far as) 行つて汽船で釜山まで行つた。
4. 彼れはピストルを以て 撃殺された (shot)。
5. 彼れは私の 無智 (ignorance) を嘲笑した。
6. 彼れは寢床に居て寐むたさうな眼で私を見上げた。
7. 彼れの 過失 (fault) を私は見て見ぬふりをして置く。

8. 高等商業學校 (The Higher Commercial School) は錦町の突當り (end) に在ります。
9. 川端柳。
10. 井戸端で洗濯。
11. コゝへ来て僕の傍へ坐り給へ。
12. 彼れは敵に短刀 (dagger) を以て殺されたり。
13. 彼女は繩を以て縛られたり。
14. 私は小丘 (hill) の頂上に居る哨兵 (a sentinel) を狙つて發砲した。
15. 私は今閑暇です。
16. 戦争の始めに。
17. 當時日本は清國と戦争中であつた。
18. 彼等は食事中であつた。
19. 私は表門 (the front gate) から這入つた。
20. 彼等は私を指して笑つた。
21. 田舎者が口を開いて走つて行く電車を見て居た。
22. そんなに人の顔をジロ々々見ちや嫌だよ。

第五十二課

前置詞の練習 (II)

for と in

He has started **for** America.What did you go there **for** ?You are tall **for** your age.I will not sell it **for** money.A fish **in** the water.He is sound **in** body and
mind.

【一】 For には向つての意味があつて出發を表はす動詞の後に用ゐられる。

start *for*
leave *for*
depart *for*
set out *for* } 出發する

embark *for* 船にて出發するentrain *for* 汽車にてbound *for* 何々行A car *for* Mita 三田行電車A train *for* Nikko 日光行汽車

何處そこへ向ふと云ふ意味より或物が或人の所へ向ふ時は其物が其人に興へられたもの。又は宛てられたものなり。例へば

A letter *for* me.

は「私の所へ宛て来た手紙」の意味にして矢張前述方向の意味より轉化したる用法である。

These are all *for* you.

これをみんなお前にやる。

Here is some water *for* you.

さあ水をやるからおいて。

Here is something *for* you.

これは輕少だがお前に上げる。

【二】 *for* は邦語の「爲めに」の意を有し目的を表はすに用ゐられる。

What did you go there *for*?

何の爲めに(何等の目的で)其處へ行つたか。

A medicine *for* cold.

感冒の薬(感冒を治するを目的とする)。

They went out *for* a walk.

散歩をしに出懸けた。

Send *for* the doctor.

醫者を迎へにやれ。

{ go *for* medicine 薬を取りに行く。

{ come *for* the book 本を借り(取り)に来る。

{ write *for* a copy 本を一冊書面で取寄せる。

{ read *for* pleasure 道樂に讀書する。

{ read *for* degrees 學位を得んと讀書する。

【三】 *for* は代りに換へての意味で交換代用の意味に用ゐられる事がある。

I can not go myself, I must get some one to go *for* me.

私は自身で行けないから 誰れか代りに行つて貰はなければならぬ。

I will hold the umbrella *for* you.

私は(君の代りに)洋傘を持つて居て上げよう。

(*for* you は斯の如く何々して 上げやうの意に用ゐらる)。

for は交換の意から代價を表はす名詞の前に用ひられる。

I sold it *for* 100 yen.

百圓で賣つた。

(即ち百圓と交換に賣りたるなり)。

I will not sell it *for* money.

金では賣らない。

【四】 *In* は中(ウチ)の意味であつて何人でも少し大きい物の、中にある事を意味するのである。

a fish *in* the water.

水中の魚。

the largest city *in* the world.

世界中での最大都會。

absorbed *in* study.

研究(の中に)身を浸す。

veiled in mystery.

秘密中に包まらる。

in は斯くして或る状態の中に在る事を意味するやうになつた。

in good health 健康状態にあり。

in trouble 困厄中にあり。

in danger 危険中にあり。

in adversity 逆境の中にあり。

in debt 借金の中にあり。

in a storm 嵐の中を

in fine weather 好天氣に。

in は又衣裳を着ての意味となる。

samurai *in* kamishimo.

社袴を着た武士。

a gentleman *in* frockcoat.

フロックコートを着た紳士。

a woman *in* white.

白衣の婦人。

【五】 *in* はに於てに關しての意味がある。此に於ての *in* は縮めてはと云ふ邦語に譯する場合が多い。

丈は六尺 six feet *in* height.

幅は五尺 five feet *in* width.

長さは一丈 one foot *in* length.

形は似て居るが resemble *in* size.

色合は違ふ but differ *in* colour.

作文練習題五十二

1. 黒装束の人。
2. 白装束の看護婦 (nurse).
3. 彼人は日本服 (Japanese clothes) で来た。
4. それは世界第一の大瀑布 (waterfall) である。
5. 私は三百圓で古い家を買つた。
6. 私は二拾圓で此机を買つた (give for).
7. 金では賣れないと彼れが申しました。
8. 金で買はれぬものがある (There is something which.....).
9. フロックコートを着た紳士。
10. 社袴を着た人。
11. 益々御壯健の事と存候 (Hoping).
12. 其事件はまだ秘密の雲に鎖されて居る。
13. あの人は借金の淵に沈んで居る。
14. あの人は今逆境に居る。
15. 私がお醫者を迎へに参りませう。
16. 誰れが藥を取りに行くか。
17. 其包 (the bundle) を持つて居て上げませう。
18. 戸を開けて上げませう。
19. それをみんな私に下さるのですか。
20. 君の所へ手紙が來て居る。

第五十三課

前置詞の練習(III)

of と on

The virtue **of** a woman.
 A woman **of** virtue.
 I was robbed **of** my money.
 They robbed me **of** my money.
 I know him.
 I know **of** him.
 There is a book **on** the table.
 The table stands **on** its legs.

【一】 of は邦語の の の意味である。

The virtue of a woman	婦人の貞操
The wisdom of Socrates	ソクラテスの智
The bravery of Kiyomasa	清正の勇氣

【二】 [of + 抽象名詞] が形容詞に相當する事がある。

即ち

{ A woman of *virtue* (貞操正しき婦人)
 { = A *virtuous* woman

{ A man of *wisdom*
 { = A *wise* man (賢人)
 { A man of *bravery*
 { = A *brave* man (豪傑)

【三】 of には奪ふの意味がある。

邦語にて「彼は私の金を盗んだ」と云ふを英語にて

{ He robbed my money と云はないで
 { He *robbed me of* my money と云ふ

又「彼等は彼の權力を奪去つた」と云ふを

{ They deprived his right と云はずに
 { They *deprived him of* his right と云ふ。

即ち[奪ふの動詞 + 人 + of (=から) + 物]の式が立つ譯になる此場合の of は分離の意味で邦語のからに當る即ち

rob	one	of	one's	money
(五)	(一)	(二)	(三)	(四)
奪ふ	人	から	其の	金を

【四】 I know him.

I know of him.

此二文の相違は I know him は其人と懇意の意 I know of him は其人の居ると云ふ事を知るの意である。

to hear of one 人の事を聞く。
 (hear from one 其人から便りを聞く)

to speak of one 噂をする。

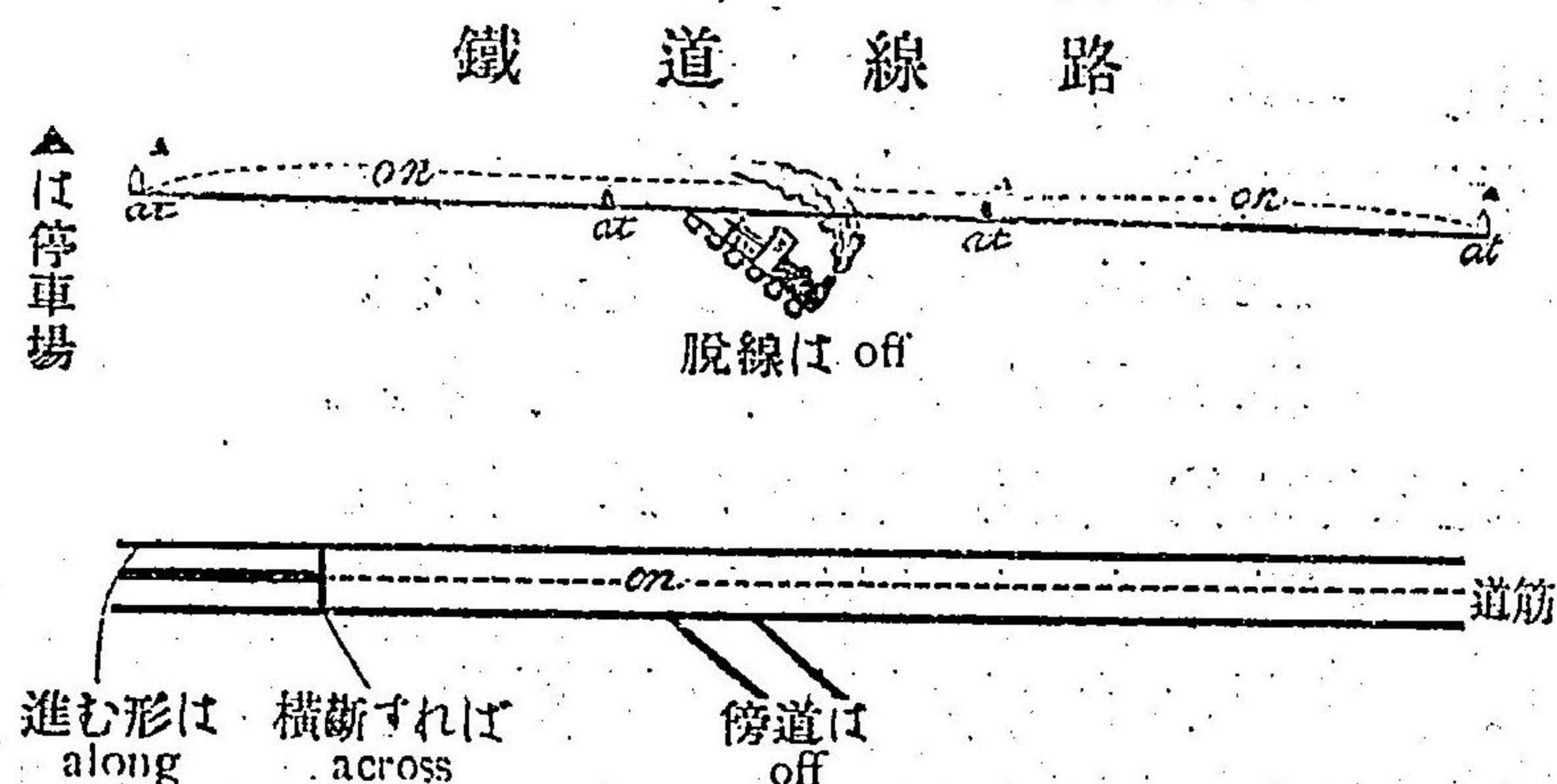
to boast of 自慢をする。

to complain of 不平を云ふ。

to think of { 思出す。
 { 思付く。

to dream of 夢に見る.

【五】 at が點だと云ふ事を前に述べたが on は線及表面を表はすのである (第五十一課 at 圖解參照):



斯の如く on の反對は off である.

on は表面とくっつく事を表はすが表面には頂面底面側面とあるが皆 on である.

- 比較 { a cap *on* the head. (頂面)
 a picture *on* the wall. (側面)
 a fly *on* the ceiling. (底面)

【六】 on は又支える意味がある. 即ち we stand *on* our legs と云へば「我々は我々の脚で(支えられて)立つ」の意.

- | | |
|--------------------|-----------|
| walk on all fours | 四つん這ひて歩く. |
| fall on one's face | 平伏する. |
| lie on one's back | 仰向けに寝る. |
| lie on one's side | 横に臥る. |

depend on { 依頼する.
 困る.
 rely on 信頼する.

作文練習題五十三

1. 私は時々彼れの父の事を思出す.
2. 私は屢々彼女を夢に見る.
3. 他人に依頼する勿れ.
4. それは場合 (cases) に依る.
5. 赤兒は四ツん這ひに匍ふ.
6. 彼れは仰向けに寝て居た.
7. 君は土左衛門泳ぎが出来るか.
8. 君はドッチ (which side) を下にして寝るか.
9. 汽車が脱線した.
10. 彼れから爾來便りがない.
11. 又彼れの噂も聞かない.
12. 我々は脚で立つ.
13. 鳥は何で飛ぶか.
14. 私はアノ人を依頼せぬ.
15. 誰れの噂をして居るのか.
16. 他人の悪口を云ふ (speak ill of) ものでない.
17. 熊は足の裏に毛がある.
18. 彼れは帽子を被つた (put on).
19. 彼れは帽子を脱いだ (take off).

20. 王様は彼れを盲目にした (deprive him of his sight).

第五十四課

前置詞の練習(IV)

to と with.

I am going **to** the post office.

To my joy he succeeded.

It is a quarter **to** five.

I will go **with** you.

He accomplished the task **with** ease.

He stood **with** a pipe in his mouth.

【一】 To はへ、までの意で go, come, return, take, bring の動詞と共に用ゐられる。

He returned *to* his native land.

彼れは故郷へ歸つた。

He brought her *to* me.

彼れは彼女を私の所へ連れて來た。

【二】 To が結果を表はす事がある。

To my joy he was still living.

嬉しかつた事には彼れは無事であつた。

(彼れが無事であつたのを見た結果喜んだるなり)。

To my sorrow

悲しい事には

To my shame

恥し乍ら

To one's astonishment

驚いた事には

尚次の to も結果を表はす。

starved **to** death

餓死

burnt **to** death

焼死

frozen **to** death

凍死

dashed } **to** pieces

片々に { 碎かれる
切斷せらる

cut

moved **to** tears

感極まつて泣く

【三】 with が以ての意味 (例せば He was killed with a sword の如き) を有する事は既に學んだが with は共にの意を有す。此兩意義は最も普通なるものである。

I will go *with* you.

君と一緒に行かう。

He is staying *with* me.

彼は私の家に滞在して居る。

【四】 [with+抽象名詞] は副詞に相當する働をするのである。

{ He did it *with* ease.

{ = He did it *easily*. 彼れは造作なくそれをした。

{ He spoke *with* great fluency.

{ = He spoke *very fluently*. 流暢に話した。

【五】 with は又「何々して」の「して」の意味に用ゐらる。

例へば「煙管を啣へて立つて居た」は

He was standing *with* a pipe in his mouth.

である。

涙を流して.....*with* tears tricking down his cheeks.

赤兒を抱いて...*with* a baby in her arms.

裾を端折つて...*with* her skirt tucked up.

杖を曳いて.....*with* a stick in his hand.

懐手をして.....*with* his hands in the pockets.

頭を垂れて.....*with* his head down.

作文練習題 五十四

1. 御一緒に参りませう。
2. 彼女は涙を流して私の話を聞いて(listening to)居た。
3. 門の傍に赤兒を抱いたお神さん (a lady) が立つて居た。
4. 彼れは懐手をしてブラブラと (leisurely) 歩いて居た。
5. 彼れは首を下げて私の意見 (remonstrances) を聞いて居た。
6. 二百餘名の兵士が八甲田で凍死をした。
7. 其半身像 (bust) は微塵に碎かれた。
8. 老婆 (an old woman) が焼死をした。
9. 彼女は感極まつて泣いた。

10. 恥し乍ら白状する (be it confessed).

11. 彼は非常に (great) 困難してそれを覺えた。

第五十五課

前置詞の練習

Into, off, among, between.

He is **in** debt.

He **ran into** debt.

The train is **on** the track.

The train went **off** the track.

He divided his property **among**
his three sons.

He divided his property **be-**
tween his two sons.

前課迄に研究した前置詞は前置詞中での重なるものであるが今尙言洩した點を爰に諸君と共に學ぶ事としやう。

【一】 in と into. in は物の中にあるを表はし into は物の中へ入る事を表はす。

{ He is **in** debt. 借金の渦中にある。

{ He **ran into** debt. 借金の渦中に投じた。

{ A fish **in** the water. 水中の魚。

{ I **threw** the fish **into** the water. 水中に魚を投入した。

【二】 on は表面及線に接する意で off はこれに離れる意である。

{ The train is on the track. 汽車が線路を走つて居る.

{ The train went off the track. 汽車が脱線した.

{ on duty 當番.

{ off duty 非番.

{ on the guard 用心.

{ off the guard 油斷.

【三】 among は三つ以上のものゝ中にあるを云ひ between は二つのものゝ間に挿まれるを云ふ。

{ among the three 三人の間に.

{ between the two 二人の間に.

between ourselves (内密で) の如き熟語あり。

英作文練習題五十五

1. 我々は二人して (between us) 之を平げた (emptied).
2. 我々三人して (among us) これを平げた.
3. 當番の兵士.
4. 非番の巡查.
5. 蛙が古池に飛込んだ.
6. 彼れは借金の渦中に陥つた.
7. 内密の事だが彼れは彼女と結婚せんとして居るよ.
8. 私は鹿に續いて (after) 林中に入つた.

→*(完)*←

EXERCISE.

EXERCISE 1.

1. This is a book.
2. It is a diary.
3. That is a cat.
4. This is a pencil.
5. It is a pen.
6. It is a cap (a hat).
7. This is a map.
8. It is a purse.
9. That is your cap.
10. That is my book.

EXERCISE 2.

1. What is this? Is it a rat? Yes, it is a rat.
2. Is that a cat? Yes, it is a cat.
3. What is that? Is it a penholder? Yes, it is (a penholder を略してよし).
4. What is this? Is it a dictionary? Yes, it is (a dictionary を略してよし).
5. What is this? Is it a watch? Yes, it is (a watch を略して可).

EXERCISE 3.

1. What is this? Is it a box? No, it is not a box.
What is it? It is a bag.
2. Is that an umbrella? No, it is not. What is it?
It is a parasol.
3. Is it true? No, it is not true.
4. Is that not your book? No, it is not my book.
5. This is not a pen. It is a writing-brush.
6. This is not a text book. It is a novel.
7. Is this a clock or a watch? It is a watch.
8. Is this a boy or a girl? This is a boy, *and* not a girl.

(and-はそれでの意)

EXERCISE 4.

1. I am a student.
2. Are you a student? Yes, I am a student.
3. Is he a student? No, he is not a student. He is a teacher.
4. Are you a boy? No, I am a girl.
5. Are you a dog? Oh no, I am a boy.
6. What is she? She is a maid-servant.
7. Is she a maid-servant? Oh no, she is the mistress of the house.

8. Is it a cat? No, it is a dog.
9. Is it a tiger? No, it is a lion.
10. I am a cat.

EXERCISE 5.

1. This is an egg.
2. This is an inkstand.
3. This is a boy.
4. This is the boy.
5. This is the dictionary.
6. Where is the dictionary? Here is the dictionary.
(Here it is と略して云ふ方宜し).
7. Where is the boy? Here is the boy (Here he is の方宜し).
8. I want a pen and an inkstand.
9. He is in the garden.
10. Where is he? He is in the house.

EXERCISE 6.

1. This is not my cap. It is your cap.
2. She is his wife.
3. She is my sister.
4. He is my brother.
5. I read a book.

6. He reads a novel.
7. I love my parents.
8. She loves her dog.
9. I see a girl and her dog.
10. The dog runs fast.

EXERCISE 7.

1. They are oxen. (cows).
2. We are not girls. We are boys.
3. There are some crows. Are they white? No, they are black.
4. Here are some swans. Are they black? No, they are white.
5. These crows are hungry.
6. Our dog is not hungry.
7. Where is your school?
8. Their school is on the hill.
9. We are brothers.
10. They are sisters.
11. We love our parents.
12. Our parents love us.
13. Here are our books.
14. There are their pens.
15. These are not our knives.
16. We are not men. We are boys.

17. Are they beggars? No, they are not beggars.
18. They are rich people.

EXERCISE 8.

1. Have you a pen? No, I have none.
2. Has he my knife? No, he has not your knife.
3. Do they study English? No, they do not study English.
4. Do you go there every day? No, I do not go there every day. I go there occasionally.
5. Do you like to read a novel? No, I do not like to read a novel.
6. I like to read an English novel very much.
7. I do not know.
8. He does not know anything.

EXERCISE 9.

1. A fat man. 2. A thin man. 3. A tall man. 4. A short man. 5. A black bird. 6. A white bird. 7. An honest man. 8. A dishonest man. 9. A good child. 10. A naughty (bad てもよし) child. 11. A pretty girl. 12. An ugly woman. 13. A red flower. 14. A yellow flower. 15. A foolish man. 16. A clever man. 17.

- A big dog. 18. A little dog. 19. A large house.
 20. A small house.
 21. Is he an honest man? No, he is a dishonest fellow.
 22. Is this a good boy? Yes, he is a very good boy.
 23. She is an ugly woman. 24. She is a pretty girl. 25.
 Our house is not large. 26. Is that little dog yours?

EXERCISE 10.

1. This is not my cap. Mine is not so dirty.
2. That is yours. Mine is newer than yours.
3. His umbrella is older than hers.
4. Your dictionary is dirtier than his.
5. Our cat is bigger than yours.
6. Our dog is smaller than his.
7. I have never seen an uglier woman.
8. I have never seen a prettier girl than she.
9. I have never met a wiser man than he.
10. Your head is larger than his. It is larger than my
brother's. It is the largest of us three.

EXERCISE 11.

1. I went there yesterday.
2. I went to school yesterday.
3. Did you go to school yesterday?

4. Did he go to school yesterday?
5. No, he did not go to school yesterday.
6. Will you go there with me to-morrow?
7. Yes, I will.
8. Will you come to my house to-morrow?
9. I put my book on the desk.
10. Where did you put your cap?
11. I put it on the chair.
12. I did not put it on the desk.
13. With whom did you go?
14. I went with my father.
15. Did your mother not go with you?
16. No, she did not go with us.
17. Where did you go this morning?
18. I went to my uncle's.
19. I wrote a letter this morning.
20. I was a child then.
21. I am an old man now.
22. I was five years old then.

EXERCISE 12.

1. Have you taken (又は had) your supper?
2. Yes, I have taken it already.
3. I have sold my cap.
4. I have bought a cap.

5. Have you ever seen a lion?
6. No, I have never seen one.
7. I have written a letter.
8. I have given my old dictionary to my brother.
9. I have lost my purse.
10. What have you done with your gun? I have sold it.
11. What have you done with your watch? I have lent it to my friend Kato.
12. What has she done with her ring? She has sold it.
13. She has bought a new ring.
14. What has he done with his horse? He has given it to his son.
15. Have you ever been abroad? No, I have never been abroad.

EXERCISE 13.

1. I will try.
2. I will give it to you.
3. I shall go to school to-morrow.
4. I will lend this book to you.
5. I shall need it at school to-morrow.
6. I will do it with you.
7. He shall die.
8. You shall have my answer to-morrow.

9. You shall have this.
10. He shall have one of my dogs.

EXERCISE 14.

1. I can not do it.
2. I must do it.
3. I must go to school to-morrow.
4. I must go to the station.
5. I can jump.
6. You must decide.
7. You must come.
8. He can write a letter in English.
9. Can you do that?
10. Can you write a letter in English?
11. Must I go?
12. You may play.
13. May I come in?
14. You may take it.
15. You may read it.
16. May I go home?
17. He must be a rich man.
18. He must be a Chinese.
19. He must be a pickpocket.
20. It may be true.
21. It may be a cat.

22. It must be a cat.
23. It can not a cat.
24. He may resign his post.
25. He must resign his post (又は he is sure to resign...)
26. It can not be true.
27. Can you speak English?
28. I wanted a man who speaks English.

EXERCISE 15.

1. You need not go.
2. You need not write it down.
3. You must not leave the room.
4. You must not go.
5. You may come in, but your sister must not.
6. I need not go to school to-morrow.
7. You need not study hard.
8. You must not eat it yet.

EXERCISE 16.

1. I study in the morning.
2. I study at night.
3. He started at dawn.
4. He arrived at dusk.
5. We eat lunch at noon.
6. An owl sleeps in the daytime (by day ても宜し).

7. It comes out in the evening.
8. He sleeps during the daytime and works at night.
9. I stay at Atami during the winter.
10. I am at Hakone during the summer.
11. He has been in Germany for a year.
12. He has been sick for a week.

EXERCISE 17.

1. Have you ever been abroad?
2. Have you ever been in America?
3. Have you ever been here?
4. Have you ever been there?
5. I have once been here.
6. He has once been there with me.
7. I have been to Uyeno.
8. He has been to school.
9. You have been to Mr. Nomura, I suppose?
10. Have you ever been in Hakodate?
11. Has he ever been here?
12. I have never been here.

EXERCISE 18.

1. He was killed by a tiger.
2. He killed a tiger.
3. It must be done by him.

4. It was seen by me.
5. I was seen by them.
6. He can not be relied upon.
7. This letter was written by her.
8. The door is open at 6.
9. Father, it was done by me.
10. I was seen by them when I came out.

EXERCISE 19.

1. I am thinking it over now.
2. He was reading a book.
3. She was writing a letter.
4. I am writing exercises.
5. He is copying it.
6. He was praying.
7. He is teaching now.
8. He is reading it.
9. I am studying hard.
10. He is walking.
11. He was pacing up and down the room.
12. He is sharpening the knife.

EXERCISE 20.

1. He swims well.
2. He gets up early in the morning.

3. He takes a walk early in the morning.
4. I go to bed early in the evening.
5. Do you take a walk in the morning?
6. I take a walk in the evening.
7. I take a bath every day.
8. Do you take a bath every morning?
9. Do you smoke?
10. He teaches English in the Tokyo Eigakko.

EXERCISE 21.

1. I had seen him before that time.
2. It had begun when we arrived there.
3. He said that his father had returned.
4. He said that he had bought a bicycle.
5. I arrived at the station after the train had left.
6. Your letter arrived after I had started.
7. I had learned some English before I went to America.
8. He had started when I went to see him.
9. He said that he had seen me before.
10. I knew her, for I had seen her before.

EXERCISE 22.

1. He reads in the car.
2. He reads fast.
3. I have read that book three times.

4. I saw his friend, Mr. Kato.
5. I do not like it.
6. Can you run fast?
7. Won't you have (run) a race with me?
8. He keeps a cat.
9. I kept awake all night.
10. He became a soldier.
11. You will make a good soldier.
12. He will make a fine wrestler.

EXERCISE 23.

1. I was only a child then.
2. I was six years old then.
3. I used to go there every night.
4. Why did you do it?
5. Why did you not come?
6. When did you return?
7. I returned yesterday.
8. Where did you go?
9. How old are you?
10. I will teach you some day.
11. How did you come here?
12. I did not go anywhere.
13. He went somewhere.
14. He speaks English very well.
15. One day he went to the river.

EXERCISE 24.

1. Come as quickly as you can.
2. He is as tall as I am.
3. He is not so tall as I.
4. This is not so good as that.
5. My hat is not so good as yours.
6. This book is as good as new.
7. He speaks English quite well, but he can not speak so well as his teacher.
8. The teacher speaks English like a foreigner.
9. The sooner you learn it, the better it will be for you.
10. The higher up we go, the colder it becomes.
11. He is as hungry as a wolf.

EXERCISE 25.

1. He is as kind as ever.
2. The child cried harder than ever.
3. He was so foolish as to trust her.
4. He was so kind as to do it for me.
5. The cat was too small to catch a rat.
6. He is too young for it.
7. She is too young to marry.
8. I was too tired to walk.

9. He is old enough to do it.
10. He was too busy to see me.

EXERCISE 26.

1. I shall go to-morrow.
 2. I shall go next week.
 3. Come again, please.
 4. Come every day.
 5. I called upon Mr. B. yesterday.
 6. I saw him three years ago.
 7. I have never seen him since.
 8. I hope I shall see you again.
 9. She arrived yesterday.
 10. My father returned the day before yesterday.
 11. My mother will return ^{the day after} to-morrow.
 12. I shall return the year after next.
 13. I will never return.
 14. A good man is not always wise.
 15. I asked him for it again and again.
 16. I shall call on you one of these days.
 17. Thank you for the other day.
 18. I shall come again.
-

EXERCISE 27.

1. Thank you very much.
 2. This is much larger than that.
 3. Jiro is much cleverer than Taro.
 4. I can hardly understand him.
 5. Perhaps you will succeed.
 6. As you have been studying very hard,
 7. He is working hard.
 8. Come quick.
 9. It is very strange.
 10. I was much surprised.
 11. He is much more diligent than he was last year.
 12. He explained it very clearly.
 13. He nearly fainted.
 14. He lives near the school.
 15. The rain was falling hard.
 16. The wind was blowing hard.
-

EXERCISE 28.

1. I shall not start if it rains.
2. As he is young, he is strong.
3. He is young, but weak.
4. He is poor, but honest.
5. Make haste, or you will be late.